

# 目 次

はじめに .....	2
I 博物館概要	
○設置目的 .....	3
○基本的性格と方針 .....	3
○沿革 .....	4
○施設・設備 .....	6
II 平成5年度 組織・運営	
○組 織 .....	8
○事業計画 .....	9
III 平成4年度のあゆみ	
○職 員 .....	11
○日 誌 抄 .....	11
○実施事業の概要 .....	13
○刀剣・スタディーコーナー	
1 刀剣コーナー .....	14
2 スタディーコーナー .....	14
○特別展	
1 飛驒のあけぼの —交流する縄文・古代人— .....	15
2 恐竜王国「恐竜一謎とロマン」 .....	16
3 近世に輝く濃飛の群像 .....	17
○資料紹介展	
食べられる野草 .....	18
○特別陳列	
学校宝物展 .....	19
○調査研究・資料収集活動	
自然部門 .....	20
人文部門 .....	22
○教育普及活動 .....	23
○図書資料寄贈者芳名一覧 .....	26
○利用状況 .....	30
○博物館関係団体 .....	31
IV 利用案内 .....	32

## はじめに

平成5年5月から18年目に入る岐阜県博物館は、すでに入館者が150万人を数えました。この17年の間に、当館は県内唯一の総合博物館として県民に親しまれ、生涯学習の場として大勢の方にご活用いただくようになりました。ご利用いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

平成4年度も、当館は資料収集・保管・調査研究・展示・教育普及など地道な活動に力を尽くしてまいりました。特別展を中心とする諸事業につきましては、記載のとおりであります。特に、特別展・恐竜王国「恐竜一謎とロマン」は、滅び去った恐竜の謎を明らかにし、子供達の夢を育てる展示として、大変好評を得ました。また、10年ぶりに年間入館者が8万人を超えたことも特記したいことです。

さて、昨今週休2日制・学校5日制の実施によりまして、参加し楽しく学習できる場として、博物館への期待は一層高まってきたように思います。当館では、平成5年度この期待にこたえるべく、二つの特別展「土と炎の芸術」「失われゆく植物」を企画しています。また、新たに「マイミュージアム構想」を立案し、その実現を図っていく予定です。県民の皆様の貴重なコレクションを展示する「マイミュージアムホール」、岐阜県の歴史・自然等に関する情報を街道ごとに新しい映像システムで紹介する「ハイビジョンホール」、この二つを核とした「マイミュージアム構想」は、従来の博物館に新しい魅力を加えるものと確信いたしております。

ここに、上記のような平成4年度1年間の活動の記録と平成5年度の事業計画の概要を紹介する館報16号を刊行いたしました。ご高覧いただき、当館のさらなる発展のためご指導を賜れば幸いに存じます。

平成5年4月1日

岐阜県博物館長 横山 勢津男

# I 博物館概要

## 〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより、広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

## 〔基本的性格と方針〕

### 1. 基本的性格

岐阜県の人文(考古、歴史、民俗、美術工芸)・自然(動物、植物、地学)等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究及びそれらの活用を図る総合博物館とする。

学校教育・社会教育との密接な連携を図り、利用者が楽しく学習することができ、未来への研究心と創造性を開発させるような生涯学習機関とする。

県内の博物館及び相当施設との連携をとり、資料の交換、提供を図り、本県の中央博物館としての役割を果たす内容と設備を有する施設とする。

資料の開発及び保存並びに活用について、専門的な調査研究を推進する。

### 2. 基本の方針

#### (1) 資料収集

県内の歴史・考古・民俗・美術工芸・自然等に関する資料を収集する。

資料は、実物を中心とするが、必要に応じて厳密な考証に基づく復元模型を含める。

寄贈、寄託、借用、購入等により収集する。

#### (2) 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。

常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の2部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるよう平易な展示を心掛け、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度のものとする。

展示の方法は、「(ア)生涯学習の場として、幅広い層に親しめる展示。(イ)資料の単なる羅列ではなくストーリー性のある展示。(ウ)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示。(エ)できる限り実物資料の展示をするが、更に、図表、模型等多種類の資料も活用。(オ)視聴覚機器などを取り入れ、見る人に強く訴える設備。(カ)明確で分かりやすい解説」とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

#### ○人文展示室1(人文総合展示)

主題「郷土のあゆみ」—原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色を分かりやすく展示する。

#### ○人文展示室2(人文課題展示)

主題「郷土の美術工芸」—特色ある郷土の美術工芸を部門別、時代別に展示する。

#### ○自然展示室1(自然総合展示)

主題「郷土の自然と私たち」—郷土の自然の概要を生態的に分かりやすく展示する。

#### ○自然展示室2(自然課題展示)

主題「郷土のさまざまな自然」—特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

#### ○特別展示室(特別展示)

特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

### (3) 事業運営

資料は、本県の歴史的発展の立場から価値のあるもの、また県内の自然にかかわる価値のあるものを保全し、収集保存する。

常設展示は、県民の学習に役立たせるため、展示構成の充実を図る。特別展示は、テーマの設定に配慮し、内容の充実を図る。

調査研究は、資料に関する専門的、技術的な調査研究と、資料の展示、保存に関する研究を行う。

教育普及は、各種の催しものを通じて県民の理解と関心を深め、生涯学習の場づくりをする。併せて各種の啓発活動を推進する。

## 〔沿革〕

岐阜県博物館は、置県百年記念事業の1つとして、昭和51年5月5日、アカマツなどの自然林の生える里山の中に開館した。

県内各地の豊かな資料をもとに、常設展示を人文展示室1・2、自然展示室1・2に分け、郷土岐阜県を紹介した総合博物館である。

また、特別展を年に数回開催している。

博物館建設準備段階からの沿革は次のとおりである。

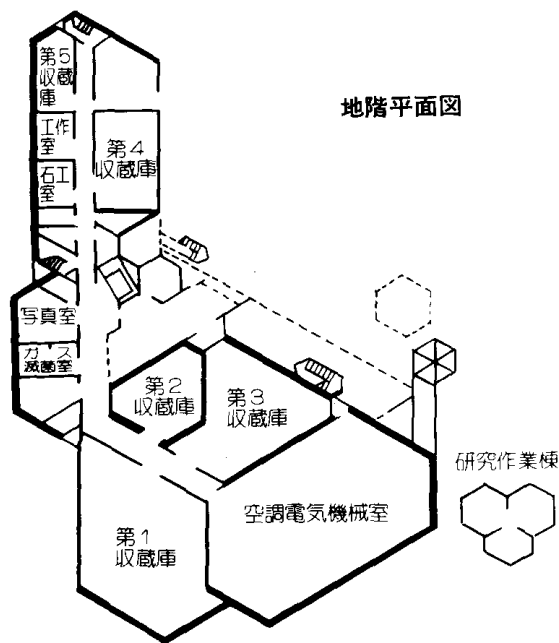
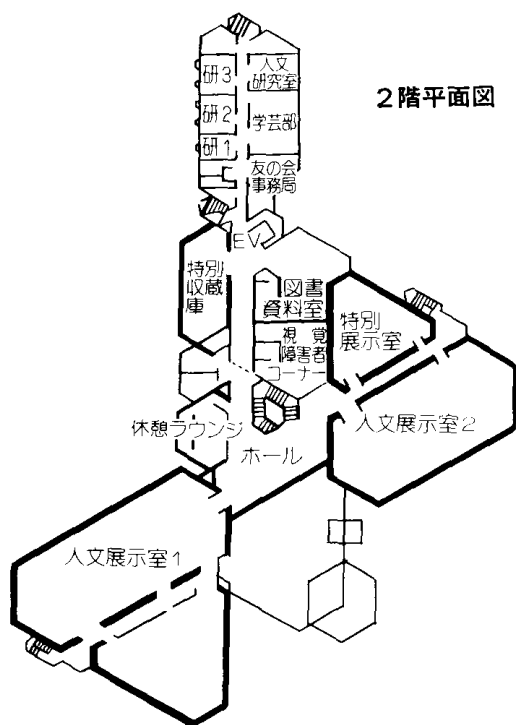
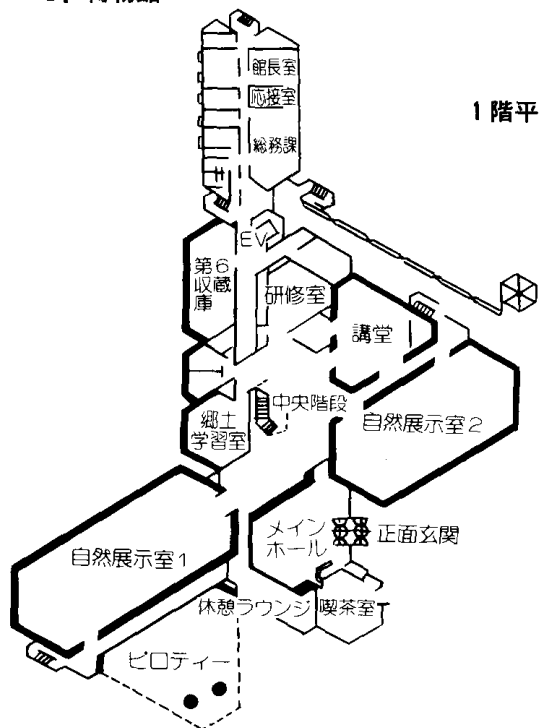
昭和46年3月	岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定
4月	教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置
6～9月	博物館懇談会を設ける
昭和47年4月	博物館開設準備室を設置 展示委員会を設ける
昭和48年8月	起工式挙行
昭和49年3月	展示実施計画樹立
10月	定礎式
昭和50年3月	展示工事着手
7月	本館建築竣工
昭和51年1月	展示工事完了
4月	岐阜県博物館条例公布 岐阜県博物館設置 展示資料等製作完了
5月	開館記念式典挙行 一般公開 巨匠三人展・スポーツ栄光展
7月	皇太子 同妃殿下行啓
8月	特別展「ふるさとの文楽」 入館者10万人を突破
10月	入館料徴収開始
11月	特別展「熊谷守一展」
昭和52年5月	特別展「日本伝統工芸秀作展」 入館者20万人突破
7月	特別展「郷土の化石展」
11月	特別展「鉄斎」
昭和53年4月	入館者30万人を突破 特別展「濃飛の甲冑」
7月	特別展「世界のコガネムシ」
10月	特別展「能面と装束」

昭和54年4月	入館者40万人突破 特別展「濃飛の先史時代」
7月	特別展「世界の貝」
10月	特別展「濃飛の文人」
11月	「視覚障害者(触察)コーナー」開設
昭和55年4月	特別展「宝暦治水と薩摩藩」
5月	入館者50万人を突破
7月	特別展「化石の世界」
10月	特別展「養虫山人」
昭和56年4月	特別展「美濃の絵馬」
5月	入館者60万人を突破
7月	特別展「御岳山は生きている」
10月	特別展「ふるさとの美濃古陶」
昭和57年4月	特別展「高賀山の信仰」 入館者70万人突破
7月	特別展「ふるさとの植物」
10月	特別展「東洋の貨幣」
昭和58年4月	特別展「岐阜県の考古遺物」
5月	入館者80万人を突破
7月	特別展「長良川」
10月	特別展「郷土の生んだ先覚者」
昭和59年4月	特別展「濃飛の戦国武将」
7月	特別展「ふるさとの昆虫」
8月	入館者90万人を突破
10月	学習ビデオスタディコーナー設置 特別展「濃飛の蘭学」
昭和60年4月	特別展「濃飛の縄文時代」
7月	特別展「鉱物の世界」
10月	特別展「美濃の刀剣」 入館者100万人を突破
12月	自然展示室2を改装
昭和61年4月	特別展「徳山の四季とくらし」
7月	特別展「奥飛驒の自然」
9月	人文展示室1を改装
10月	開館10周年記念式典を挙行 開館10周年記念展「ふるさとの祭り」
昭和62年4月	特別展「濃飛の弥生時代」 入館者110万人を突破

- |         |  |        |                          |
|---------|--|--------|--------------------------|
| 7月      | 特別展「外国から侵入した生きものたち」  | 4月     | 特別展「飛驒のあけぼの—交流する縄文・古代人—」 |
| 10月     | 特別展「飛驒の匠」<br>旧徳山村民家移築復元  | 7月     | 特別展恐竜王国「恐竜—謎とロマン—」       |
| 昭和63年1月 | 自然展示室1を改装  | 10月    | 特別展「近世に輝く濃飛の群像」          |
| 4月      | 特別展示室ショーケース改修<br>特別展「ふるさとの湿原」  | 平成5年3月 | 入館者150万人を突破              |
| 7月      | 中部未来博88記念展「中山道—美濃十六宿」  |        |                          |
| 10月     | 特別展「中生代の化石」<br>入館者120万人を突破   |        |                          |
| 平成元年4月  | 特別展「濃飛の古墳時代」   |        |                          |
| 7月      | 特別展「ふるさとの野鳥」   |        |                          |
| 8月      | 16日恐竜足跡化石白川村で発見  |        |                          |
| 10月     | 特別展「移ろいゆく年中行事」   |        |                          |
| 11月     | 日本生命財団より図書「岐阜県博物館総合案内」4,000冊の寄贈を受ける  |        |                          |
| 平成2年4月  | 特別展「輪中と治水」   |        |                          |
| 7月      | 特別展「白山の自然」<br>「恐竜足跡化石レプリカ」除幕式<br>グリーンアドベンチャー標識設置（自然観察のこみちに）<br>岐阜県博物館協議会に「新しい時代・県民ニーズに対応できる博物館の在り方について」諮問<br>入館者130万人を突破 |        |                          |
| 10月     | 特別展「濃飛の仏像」   |        |                          |
| 12月     | 岐阜県博物館協議会より中間答申  |        |                          |
| 平成3年3月  | 岐阜県博物館案内標識を設置  |        |                          |
| 平成3年4月  | 特別展「ふるさとの木の文化」   |        |                          |
| 7月      | 特別展「ふるさとの哺乳動物」   |        |                          |
| 10月     | 置県120年・岐阜鹿児島姉妹県盟約20周年記念展「鹿児島—その自然と歴史—」   |        |                          |
| 11月     | 入館者140万人を突破  |        |                          |
| 平成4年3月  | 岐阜県博物館協議会より「新しい時代・県民ニーズに対応する博物館の在り方について」答申   |        |                          |

〔施設・設備〕

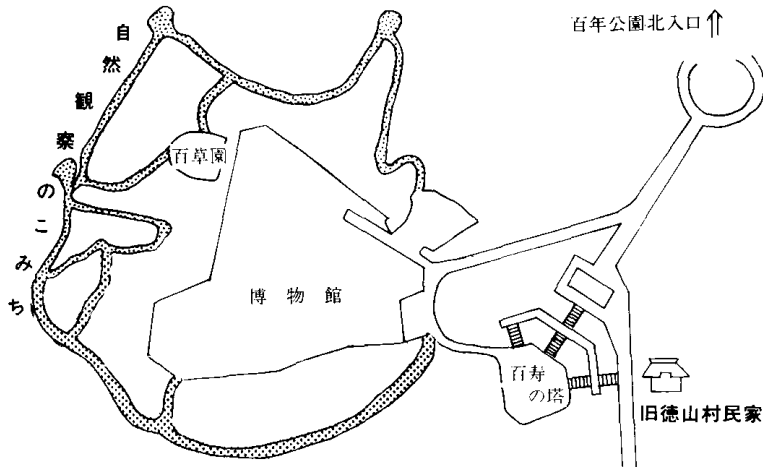
1. 博物館



・主要室名及び面積

	室名	面積 (㎡)
1階	自然展示室1	583.8
	自然展示室2	478.8
	郷土学習室	95.4
	講堂	174.5
	研修室	93.2
	第6收藏庫	142.8
2階	人文展示室1	942.2
	人文展示室2	478.8
	特別展示室	193.2
	図書資料室	232.0
	視覚障害者コーナー	58.4
	特別收藏庫	142.8
地階	第1收藏庫	314.1
	第2收藏庫	126.0
	第3收藏庫	192.0
	第4收藏庫	99.4
	第5收藏庫	55.0

## 2. 野外施設



### (1) 自然観察のこみち

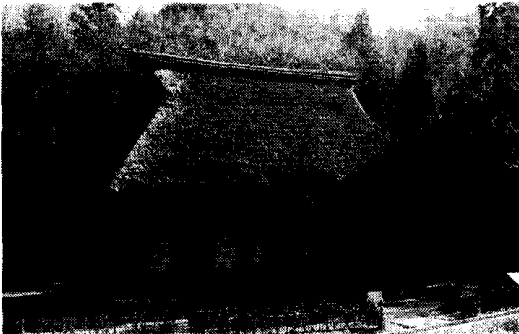
館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中に生きた展示として、季節とともに移り変わる自然のすがたを観察できるようにしたこみちである。

全長約830mで、途中見晴らし台が3ヶ所、万葉集の植物の案内、ツツジの群生地、百草園、マンサクの林などが設けられている。

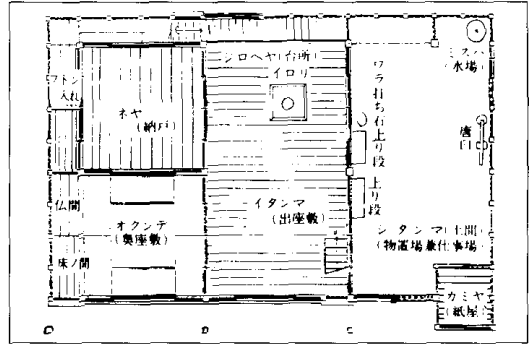
なお、樹林の特徴などが学習できるようグリーンアドベンチャー常設コースとして、40本の樹木Q&Aパネルを設置している。

### (2) 旧徳山村民家

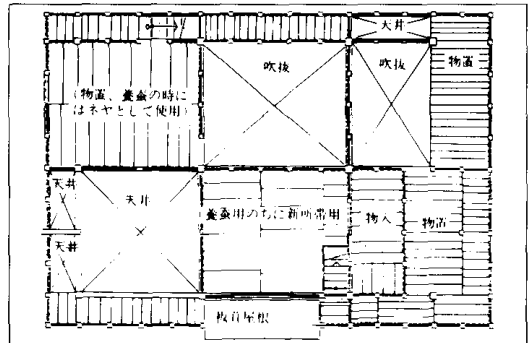
徳山ダム建設計画に伴い、徳山村は閉村となり藤橋村になったが、徳山の生活を後世に語り継ぐため、当時徳山村戸入<sup>とにやう</sup>在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了したもので、生活用具なども展示し無料開放している。



- ・様式 木造かやぶき2階建、南平入り
- ・主材 プナ・トチ
- ・建面積 120.97㎡
- ・延面積 197.48㎡
- ・間取り 下図参照
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・屋根 入母屋式、切り落とし窓つき



▲1階間取り図

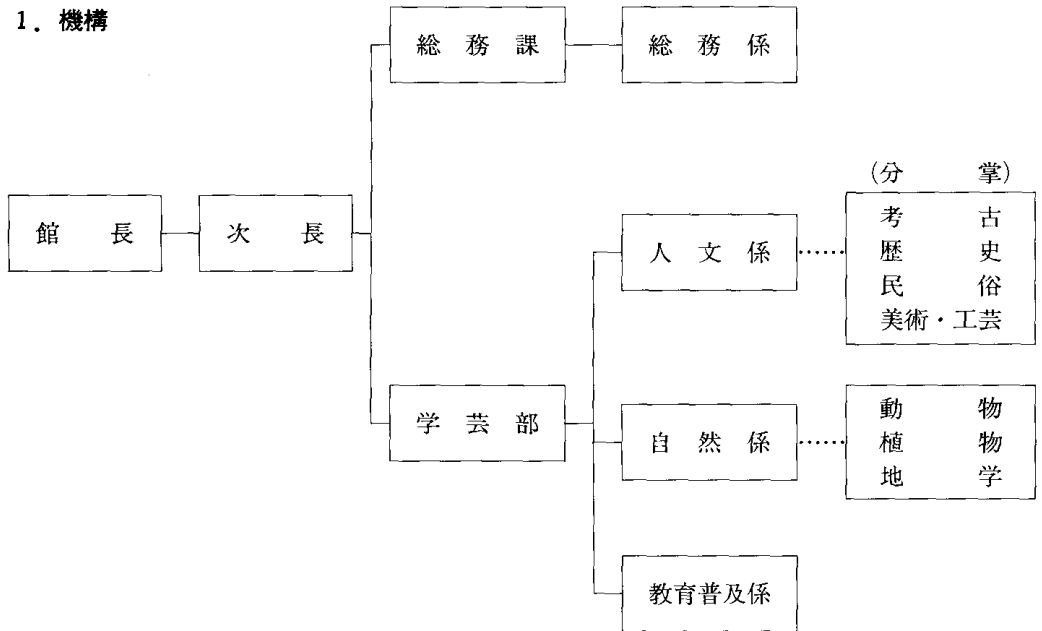


▲2階間取り図

## II 平成5年度 組織・運営

### 〔組織〕

#### 1. 機構



#### 2. 職員

平成5年4月現在

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	横 山 勢 津 男	〔 学 芸 部 〕	
次 長 兼 総 務 課 長	安 江 真 澄	学 芸 部 長	渡 辺 利 昭
〔 総 務 部 〕		課 長 補 佐 兼 人 文 係 長	野 原 薫
総 務 係 長	斎 藤 紘 子	課 長 補 佐 (美 術 工 芸 担 当)	水 野 巨 雄
主 任 事	市 原 聡	〃 (民 俗 〃)	安 田 守
〃	千 田 友 清	〃 (歴 史 〃)	今 津 利 治
〃	仁 科 純 子	学 芸 主 事 (考 古 〃)	大 塚 章
業 務 嘱 託 員	酒 井 美 奈	課 長 補 佐 兼 自 然 係 長	遠 藤 俊 治
〃	坂 井 真 紀	課 長 補 佐 (植 物 担 当)	後 藤 常 明
〃	長 谷 川 陽 子	〃 (動 物 〃)	杉 山 隆 則
〃	亀 山 綾 子	学 芸 主 事 (地 学 〃)	前 田 伸 一
〃	加 藤 京 子	学 芸 嘱 託 員 (昆 虫 〃)	説 田 健 志
〃	田 代 千 津 子	課 長 補 佐 兼 普 及 係 長	安 藤 正 春
〃	竹 内 寿 子	課 長 補 佐	平 井 正 寛
		学 芸 主 事 員	三 尾 寛 次 夫
		学 芸 嘱 託 員	今 尾 英 夫
		〃	大 前 匡 昌
		〃	梅 溪



### 3. 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、または意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例（昭和51年）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

平成5年3月31日現在（五十音順）

氏名	住所	現職
大宮 義章	岐阜県高等学校長協会副会長	岐阜市加納南陽町3-15
小瀬 洋喜	岐阜市立女子短期大学学長	岐阜市加納鉄砲町3-31
熊田 光久	岐阜県博物館友の会会長	関市山王通西7-10
○坂 倉又吉	千代菊(株)取締役会長	羽島市竹鼻町2733
篠田 薫	かぐや第三幼稚園副園長	岐阜市粟野西1-10
嶋崎 藤雄	岐阜県公民館連合会会長	岐阜市安食951
鈴木 安行	岐阜県小学校長会会長	岐阜市長良西野前25-1
辻 久夫	岐阜県中学校長会会長	岐阜市長良北町2-175-1
◎土屋 斉	(株)大垣共立銀行取締役会長	大垣市荒尾町1077
林 恒之	岐阜県私立中学高等学校協会長	岐阜市青柳町1-5
溝脇 昭人	名古屋テレビ放送(株)報道部	岐阜市鷺山186-1
和田 吉弘	岐阜大学教育学部生物地学科教授	岐阜市長良白妙町1-5

◎…会長 ○…会長代理

### 〔事業計画〕

#### 1. 展示活動

事業名	期間	主な展示内容
常設展		1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸について展示。刀剣コーナーは年4回展示替えを行う。
特別展 「土と炎の芸術— ふるさとに息づく 技と心—」 「失われゆく植 物」	4/27～6/27 10/6～11/28	志野、黄瀬戸、瀬戸黒、織部など郷土を代表する美濃古陶をはじめとして、県下各地に継承されている諸窯の代表的作品を展示・紹介する。 開発の進展とともに豊かな自然が姿を消しつつあるなかで、失われゆく植物とそれらを守り育てようとする取り組みについて紹介する。
資料紹介展 「川と自然」	7/18～9/5	木曾川、長良川、揖斐川をはじめとする県内の河川がつくりだした環境と、そこに生きる動植物の姿を総合的に紹介する。
特別陳列 「学校宝物展」	2/1～3/31	美濃・岐阜・西濃地区の小・中学校で保管されている貴重な資料を展示・紹介する。
スタディーコーナー		ふるさとの化石…古生代（～4月） 岐阜県のスゲ（5・6月） 鳴く虫…セミの仲間（7・8月） 石灰岩とかこう岩（9・10月） 動物の骨格（11・12月） カモ（1・2月） ふるさとの植物化石（3月～）

## 2. 教育普及事業

事業名	期日	対象	定員	内容
特別展講演会	6/20	一般		「織部焼の源流と国際性」 美濃陶芸協会名誉会長 加藤卓男氏
〃	11/14	〃		「絶滅の危機にある植物」 東京大学助教授 矢原徹一氏
文化講演会	11/3	〃		「漫画と文化」 漫画家 福地泡介氏
県博日曜講座	7/25	小学生以上一般		水辺の植物
〃	8/1	〃		川とけものたち
〃	8/8	一般		飛騨・木曾の木材といかだ流し
〃	9/5	小学生以上一般		川のはたらき
〃	10/24	一般		「今、資源植物が危ない」 岐阜薬科大学助教授 田中俊弘氏
〃	1/23	〃		中山道と美濃路
自然観察会	4/29	小学生以上一般	50人	観察のこみちの樹木を調べよう (グリーンアドベンチャー事業)
〃	5/23	親子	37人	ふるさとの化石を観察しよう(荘川村)
〃	8/22	小学生以上一般	30人	川原の昆虫を観察しよう
ふるさと自然探検隊	8/7 ～8	親子	50人	高原の自然をさぐる(中津川市・根の上高原) 宿泊: 恵那山荘
陶芸教室	5/16	一般	30人	茶碗 美濃陶芸協会副会長 小林文一氏
〃	6/6	〃	30人	花瓶 美濃陶芸協会副会長 小林文一氏
親子教室	5/5	親子	50人	紙でいろいろなものを作ろう 造形作家 水野政雄氏
〃	8/15	〃	40人	火おこし器をつくろう
〃	8/29	〃	50人	竹細工(笛・竹とんばをつくろう) 竹細工師 石原文雄氏
〃	10/31	〃	40人	紙で恐竜をつくろう
〃	12/12	〃	50人	凧をつくってあげよう 竹細工師 石原文雄氏
〃	12/19	〃	50人	わら細工(しめなわをつくろう) わら細工師 大野仁久氏
たのしい土曜教室	4/10	小中学生・親	50人	チョウを観察しよう
〃	5/8	〃	50人	やきもの(人形をつくろう)
〃	6/12	〃	50人	やきもの(日用品をつくろう 一施釉一)
〃	7/10	〃		ふるさとの祭りの映画をみよう
〃	9/11	〃		博物館を探検しよう
〃	10/9	〃		中山道の映画をみよう
〃	11/13	〃		失われゆく植物を知ろう
〃	12/11	〃	40人	版画で年賀状をつくろう
〃	1/8	〃	50人	野鳥を観察しよう
〃	2/12	〃	100人	博物館の資料をかこう
〃	3/12	〃		春をさがそう
ふるさと探訪	11/7	親子・一般	37人	街道を歩こう(美濃路)
特別行事	1/9		200人	七草がゆを食べよう
民俗芸能	5/2			関孫六太鼓(雨天時5/3に順延)

### III 平成4年度のあゆみ

#### 〔職員〕

職 名	氏 名	職 名	氏 名
館 長	篠 田 幸 男	〔 学 芸 部 〕	
次 長 兼 総 務 課 長	尾 藤 俊 二	学 芸 部 長	渡 辺 利 昭
〔 総 務 課 〕		課 長 補 佐 兼 人 文 係 長	野 原 薫
総 務 係 長	武 田 正 雄	課 長 補 佐 (美 術 工 芸 担 当)	水 野 巨 雄
主 任 事	市 原 聡	〃 (民 俗 〃 )	安 田 守
〃	鈴 木 猛 久	〃 (歴 史 〃 )	今 津 利 治
〃	仁 科 純 子	学 芸 主 事 (考 古 〃 )	大 塚 章
業 務 嘱 託 員	酒 井 美 奈	課 長 補 佐 兼 自 然 係 長	国 光 正 宏
〃	坂 井 真 紀	課 長 補 佐 (地 学 担 当)	遠 藤 俊 治
〃	長 谷 川 陽 子	〃 (動 物 〃 )	中 島 恬
〃	亀 山 綾 子	〃 (植 物 〃 )	後 藤 常 明
〃	加 藤 京 子	学 芸 嘱 託 員 (昆 虫 〃 )	説 田 健 一
〃	田 代 千 津 子	課 長 補 佐 兼 教 育 普 及 係 長	小 川 敏 雄
〃	竹 内 寿 子	学 芸 主 事 (教 育 普 及 担 当)	大 平 高 司
		学 芸 嘱 託 員	大 今 尾 英 夫
		〃	桑 原 克 巳

#### 〔日誌抄〕

転出 部 長	清水昭男	転入 部 長	渡辺利昭
課長補佐兼人文係長	安藤和男	課長補佐兼人文係長	野原 薫
課長補佐	尾関 章	課長補佐	水野巨雄
〃	川瀬善忠	学芸主事	大塚 章
主 事	吉田明美	新任 主 事	酒井美奈
技 師	林 作男	学芸嘱託員	今尾英夫
退職 学芸嘱託員	近藤普潤	〃	桑原克巳
〃	山口 登	業務嘱託員	田代千津子
業務嘱託員	藤井敬子	〃	竹内寿子
〃	林崎明美		

平成4年度

- 4・1 「岐阜県博物館報」第15号発行  
〃 「岐阜県だより」第47号発行  
19 日曜講座「美しい貝」  
20 特別展「飛驒のあけぼの」開場式  
(6月14日まで)  
27 岐阜県恐竜化石学術調査推進委員会  
29 自然観察会「観察のこみちの樹木を調べよう」  
5・3 民俗芸能「関孫六太鼓」  
5 親子教室「やきもの(1)(施文具と土器をつくろう)」  
14 岐阜県博物館協会総会  
17 特別展シンポジウム「飛驒からみた石器と土器の交流」  
24 自然観察会「水生昆虫を調べよう」  
25 岐阜県博物館友の会10周年記念海外研修 台湾(3泊4日)  
31 特別展講演会「川合遺跡群(飛驒川・木曾川合流点)を掘って」  
6・7 日曜講座「両面宿禰の時代」  
10 平成4年度四館会議  
11~12 東海地区博物館連絡会議(於：静岡市)  
14 親子教室「昆虫標本をつくろう」  
21 親子教室「やきもの(2)(日用品をつくろうー施釉ー)」  
7・13 特別展恐竜王国「恐竜ー謎とロマンー」開場式(9月6日まで)  
15 福井県・岐阜県恐竜化石調査交流会  
18・19 特別講座「恐竜の生きていたころ」  
25~26 ジュニア恐竜探検隊(於：荘川村・白川村)  
28 岐阜県児童生徒科学作品移動展(8月9日まで)  
31 百年公園と博物館連絡会議  
8・1 恐竜化石クリーニング公開実演  
2 特別展講演会「恐竜はなにをみたか」  
9 親子教室「火おこし器をつくろう」  
16 特別展講演会「恐竜ー謎とロマンー」  
23 親子教室「化石のクリーニングをしよう」  
9・6 日曜講座「木曾三川の水運」  
12 たのしい土曜教室「博物館を探検しよう」  
10・19 特別展「近世に輝く濃飛の群像」開場式(11月23日まで)  
25 特別講演会「近世濃飛の文化と人物」  
11・3 文化講演会「武将と美濃鍛冶」  
5~6 日本博物館協会全国大会(於：徳島市)  
12 岐阜県博物館協議会  
14 たのしい土曜教室「江戸時代に活躍したふるさとの人を知ろう」、「落葉であそぼう」  
15 日曜講座「大垣藩と岩村藩にみる文教政治」  
26~27 東海3県博物館協会交流研修会(於：鳥羽市)  
12・6 親子教室「版画(年賀状をつくろう)」  
9 資料紹介展「食べられる野草」(1月24日まで)  
12 たのしい土曜教室「縄文時代や古墳時代の映画をみよう」  
13 親子教室「凧づくり(つくって揚げよう)」  
20 親子教室「わら細工(しめなわをつくろう)」  
1・9 たのしい土曜教室「食べられる野草を知ろう」  
10 特別行事「七草がゆを食べよう」  
17 日曜講座「食べられる野草」  
28 平成4年度消防訓練  
2・13 たのしい土曜教室「野鳥を観察しよう」  
14 写生会「博物館資料をかこう(甲冑・土器・鳥・動物など)」  
16 特別陳列「学校宝物展」(3月31日まで)  
3・7 自然観察会「野鳥をみよう」  
13 たのしい土曜教室「ふるさとの学校の宝物をみよう」  
20 ふるさと探訪「真桑文楽をたずねて」

## 【実施事業の概要】

前年度末に出された県博物館協議会からの答申(新しい時代・県民ニーズに対応する博物館の在り方)と博物館見直し事業調査研究会からの報告をもとに、「来たるべき世紀の新しい博物館を目指して」をまとめた。

これによって、県博物館の“目指す姿”“整備方針”“マイミュージアム(建物の仮称)の具体的なイメージ”“ハイパーハイビジョン風土記・岐阜の具体的なイメージ”が明確になった。

学校5日制実施に伴う「たのしい土曜教室」の開校も特記しておきたい。

なお、施設面では、前年度に引き続き、屋上防水補修工事が行われた。また、展示備品として、織田信長像(複製)、県の魚アユのジオラマやコヨシキリ、ホシガラス、カヤネズミ、ニホンザルなど数多くの複製の標本が作製できた。

### 1. 調査研究活動

人文関係では、「岐阜県の風土」というテーマで岐阜・西濃地域の民俗について、自然関係で

は「奥美濃の自然」というテーマで能郷白山一帯の地形・地質・動植物の学術調査・研究をそれぞれ行った。

### 2. 展示活動

下の表に示したように、特別展3回、資料紹介展1回、特別陳列1回を実施した。特に、7月中旬から9月初旬にかけて開かれた夏季特別展「恐竜—謎とロマン—」には2万5千余人が入場するなど2年前の「濃飛の仏像」展以来の盛況であった。

### 3. 資料収集活動

人文関係では、実物資料の価値判断のための文献調査に力点を置いた。自然関係では、例年のように、植物資料の同定はもちろん、そのほか、資料紹介展にちなんで、食べられる野草、失われゆく野草の収集ができた。

### 4. 教育普及活動

ち密で幅広い活動が展開できた。なかでも、友の会員の協力で実施できた“七草がゆを食べよう”は200人を超える参加をえ、好評であった。入館者数は82,735人であった。

事業名	期間	展示内容	入館者数
常設展	年間	2階人文展示室2は、春の特別展に一部を、夏・秋の特別展には全部を開放。触察コーナーを一時期2階廊下へ移動。1月以降は、とり歳にちなんだ展示も行う。	82,735
特別展 飛驒のあけぼの —交流する縄文・古代人—	4/21～6/14	発掘資料によって、古代、飛驒地方の、他地域との交流の歴史を紹介。	17,746
恐竜 —謎とロマン—	7/14～9/6	恐竜化石学術調査団の成果の紹介と国内外の恐竜資料の展示。	25,149
近世に輝く濃飛の群像	10/20～11/23	政治・社会・文化の面で活躍した濃飛の先人(江戸)を紹介。	11,081
資料紹介展 食べられる野草	12/9～1/24	県内で見られる野草の中で、食べられるものを展示。	3,493
特別陳列 学校宝物展	2/16～3/31	飛驒・東濃・可茂地区の小・中学校が保管している貴重な資料93点(76校)を展示。	5,701
スタディコーナー	年間	くらしの中の石(4月)、岐阜県のトンボ(5・6月)、岐阜県の夏鳥(7・8月)、ふるさとの岩石(9・10月)、岐阜県の貝(1・2月)、ふるさとの化石(3月)	

## 〔刀剣・スタディコーナー〕

### 1. 刀剣コーナー

当館では、人文展示室2に刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。4年度は、人文展示室2を夏季特別展「恐竜」と秋季特別展「濃飛の群像」の展示会場にあてたためその期間は、特別展示室に刀剣コーナーを移して展示した。

4年度の年間展示資料は下記のとおりである。第1期は、美濃の刀剣のみを展示し、第2期には、仁王が両面に美しく彫刻されている短刀や肌が美しい青江を、また第3期では、反りの深い長谷部国信の太刀と反りの浅い波平行安の太刀を対比的に展示し、それぞれ特色ある刀剣展示を工夫した。

第1期	第2期	第3期
平成4年4月1日 ～平成4年10月4日	平成4年10月5日 ～平成5年1月22日	平成5年1月2日 ～平成5年3月31日
刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 太刀 銘 兼 光 刀 無銘 濃州関住兼定 刀 無銘 大 道 刀 銘 兼 道 槍 銘 兼 若	刀 無銘 青 江 短刀 銘 二 王 清 永 刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 太刀 銘 兼 友 刀 銘 濃州赤坂住兼元 槍 銘 兼 若 刀 銘 兼 安	刀 無銘 志 津 刀 無銘 直 江 志 津 刀 銘 濃州赤坂住兼元 太刀 銘 長 谷 部 国 信 太刀 銘 波 平 行 安 脇差 銘 兼 見 槍 銘 志 津 三 郎 源 兼 氏 槍 銘 兼 若

### 2. スタディーコーナー

本館では、ふるさとの自然資料を、常設展、特別展、資料紹介展で紹介している。さらに、トピックス的な問題や、身近なテーマを紹介するため、このコーナーでは、動物、植物、地学の各分野ごとの資料をパネルや写真で補足し、輪番でやさしく展示紹介している。

「くらしの中の石」……3月～4月

人々は、石器時代の昔から暮らしの中にいろいろな石の製品を用いてきた。今回は、そのようすの一端を紹介した。

「岐阜県のトンボ」……5月～6月

岐阜県で最初に発見されたムカシヤンマやムカシトンボ、湿地に生息するハッチョウトンボを中心に県内に分布するトンボを紹介した。

「岐阜県の夏鳥」……7月～8月

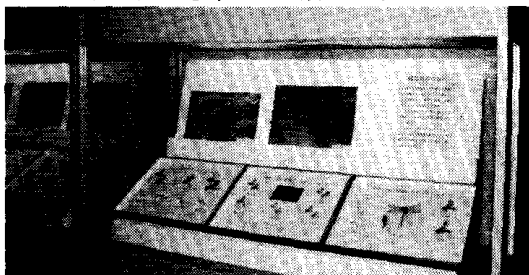
日本を訪れる夏鳥には、姿が美しい鳥も多い。今回はキビタキ、オオルリなど色鮮やかで古くから親しまれている鳥を中心に紹介した。

「ふるさとの岩石—火成岩」……9月～10月  
岐阜県には、火成岩、堆積岩、変成岩などいろいろな岩石が分布している。今回はこの中の火成岩を紹介した。

「岐阜県の貝」……1月～2月

岐阜県に産する代表的なカタツムリや淡水に生息する貝類、関市内で調査した淡水産貝類全18種の分布資料をわかりやすく紹介した。

「ふるさとの化石—古生代」……3月～4月  
岐阜県には、福地、赤坂など日本を代表する古生代の化石を多産する地域がある。今回は、この地域の化石を中心に紹介した。



## 〔特別展〕

### 1. 「飛驒のあけぼの」

#### —交流する縄文・古代人—

4月21日(火)～6月14日(日)

豊富で多様な「山の幸」に恵まれた飛驒地方は、日本文化の源流とも言えるべき縄文文化が華やかに展開したことで知られている。また、古代の飛驒の説話として有名な「両面宿禰伝承」や「飛驒の匠」などの存在は、この地域に美濃とは異なる独自の文化が培われていたことを物語っている。

こうした飛驒の文化の特色あるあり方は、他地域との広範かつ積極的な交流によって形成されてきた。本特別展では、この「文化の交流」という視点を基軸として、近年盛んに行われている飛驒地方の考古学調査の成果の上になって黎明期の飛驒を舞台とした文化形成の過程を紹介し、あわせて地域文化に対する興味関心を喚起することを企図した。

#### 〈展示構成の概要〉

「豊かな縄文時代」と「古代の飛驒と宿禰の伝承」の2部に大別し、あわせて1,000点を超える資料を展示した。

#### (1)豊かな縄文時代

##### ①列島文化の回廊(旧石器時代から縄文時代へ)

旧石器時代から縄文時代初期の石器文化を紹介し、導入部とした。様々な技法で作られた石器や国重文の二本長 嘯 収集品を展示した。

##### ②交流する縄文土器

縄文時代の各時期において、関西系、信州・関東系、東海系、北陸系などの土器が、交錯して飛驒に持ちこまれ、盛んに交流していったようすを展示した。国重文高山市糠塚遺跡出土列孔浅鉢もあわせて展示した。



##### ③ルーツは飛驒～飾り・祈る

下呂町原産の下呂石製石器が、東海・北陸に広く分布することを紹介し、また、トロトロ石や硬玉製大珠などの信仰石器・装身具の数々を展示して縄文人の精神生活の一端を表した。

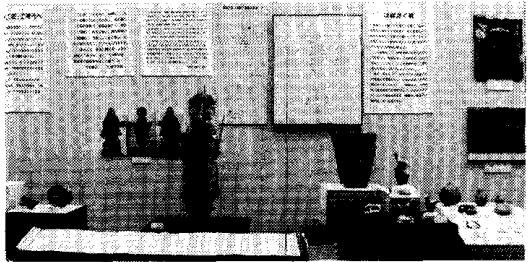
##### ④発掘された飛驒最大の縄文集落址

最近の発掘調査により多数の住居跡が発見され話題となった高山市垣内遺跡の全容を紹介。

#### (2)古代の飛驒と宿禰の伝承

##### ①両面宿禰の伝承(弥生時代～古墳時代)

蛇紋岩製磨製石斧などに見ることができる「木の文化」の到来、美濃とは異なる古墳の展開など、弥生～古墳時代の飛驒文化の流れを紹介し、両面宿禰伝承が成立してくる背景を探った。



##### ②並びたつ古代寺院

古川・高山の両盆地に10か寺以上の寺院が林立したようすを、多様な軒丸瓦で紹介した。またユニークな線刻瓦も展示した。こうした飛驒の技術力が、飛驒の匠を生み、現代に至るまで継承されてきている点を指摘し、結びとした。

#### 〈関連事業〉

##### ○特別展シンポジウム

「飛驒からみた石器と土器の交流」 5/17(日)  
高山考古学研究会

石原哲彌氏 吉朝則富氏  
田中 彰氏 岩花秀明氏

##### ○特別展講演会

「川合遺跡群(飛驒川・木曾川合流点)を掘って」 5/31(日)

日本考古学協会会員 吉田英敏氏

##### ○県博日曜講座

「両面宿禰の時代」 6/7(日)

##### ○親子教室

「やきもの(1)施文具と土器をつくろう」

##### ○図録「飛驒のあけぼの」(B5判70ページ)

## 2. 恐竜王国「恐竜一謎とロマン」

7月14日(火)～9月6日(日)

平成元年夏、岐阜県大野郡白川村大白川上流域で恐竜足跡化石が発見されたことにより、この地域に分布する手取層群と呼ばれる中生代の地層から、恐竜の骨や歯の化石が発見される可能性がでてきた。そのため、平成2年には、足跡化石発見場所及びその周辺の化石、地質の調査を行う「岐阜県恐竜化石学術調査団」が結成され、調査を進めている。

この調査で発見された恐竜の化石等は、この地域に恐竜がいたことを示し、岐阜県の古環境を考察する上で極めて重要な資料といえる。

本特別展は、恐竜化石学術調査団の調査の中間報告の場とすると共に、国内外の恐竜化石や中生代の様々な化石を展示し、県民が謎とロマンに満ちた恐竜時代に思いをはせながら、ふるさと岐阜の自然史を理解する一助とした。

### 〈展示構成の概要〉

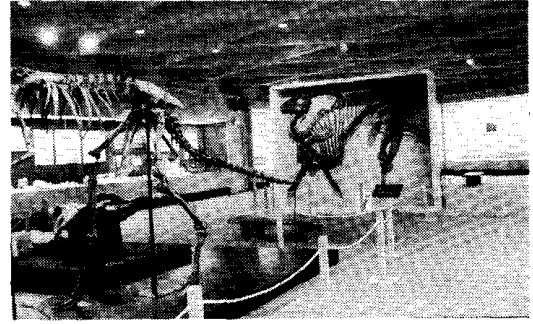
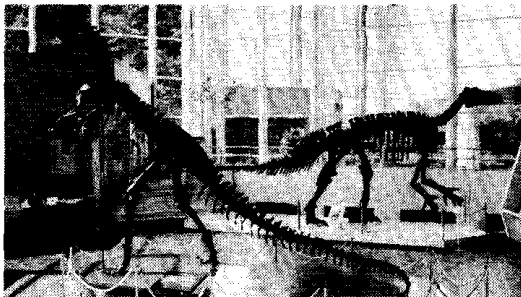
展示は、次の4コーナーから構成した。

#### (1) 謎の動物—恐竜—

恐竜化石の産出状況、アロサウルス、パラサウロロフス、ガリミムスなどさまざまな恐竜の全身骨格、恐竜の頭骨や歯の化石などを展示した。さらに、現生の動物の骨格や頭骨を展示し、それらとの対比の中で来館者みずから、いろいろな恐竜の体のつくりやその生活のようすなどを理解できるよう留意して紹介した。

#### (2) 恐竜がみた海と空

主な展示物は、海で生活したヒドロテロサウルス、ステノプテリギウス、クリダステスなどは虫類、空を飛んだプテロダクティルス、ランフォリンクスなどは虫類、ギリカス、シーラカンスなどの魚類、イノセラムス、オキナエ



ビスなどの貝類、トンボなどの昆虫類などである。これらの資料を通して、恐竜と同じ時代に生きた多様な中生代の生物のようすを紹介した。

### (3) ふるさとの恐竜時代

#### ① 恐竜発見の地—白川村・荘川村—

白川村で発見された恐竜足跡化石や調査団が発見した恐竜の歯、カメの背甲、魚の鱗などの化石のほか、手取層群を構成する岩石や地質図、絶対年代を測定した岩石とその測定結果など恐竜学術調査団の成果を明らかにした。

#### ② 手取湖と恐竜

福井県、石川県で発見された恐竜の化石を展示するとともに、手取湖の変遷や復元図などのパネル等を通して手取層群のようすを総合的に紹介した。

#### (4) ふくらむ恐竜への夢

アメリカ合衆国ユタ州の恐竜化石を当博物館員が調査した成果やブリガム・ヤング大学から借用した恐竜化石を紹介した。また、福井県、石川県の恐竜化石調査のようすなども実物化石や写真で紹介した。

### 〈関連事業〉

#### ○特別展講演会

「恐竜はなにをみたか」 8月2日(日)

講師 岐阜大学教授 梶田澄雄氏

「恐竜一謎とロマン」 8月16日(日)

講師 横浜国立大学教授 長谷川善和氏

#### ○親子教室

「化石のクリーニングをしよう」 8月23日(日)

#### ○実演

「恐竜化石クリーニング」 8/1(土)、8/15(土)

○図録 「恐竜王国 恐竜一謎とロマン」(B5判36ページ)



### 3. 「近世に輝く濃飛の群像」

10月20日(火)～11月23日(月)



約270年間続いた江戸時代は、社会や文化を發展・成熟させた時期であった。美濃国は10余の大名領、70有余の旗本領、さらには幕府直轄領に細分化され、一方、飛騨国は金森氏支配から幕府直轄支配に変わるなど複雑であったため濃飛両国の社会や文化の發展は一様でなかった。

こうした中でも濃飛両国からは幾多の優れた人物が輩出し、地域の社会や文化を高めていった。

今回の特別展では、近世において濃飛両国で活躍した人々を取り上げ、その業績や果たした役割を紹介し、郷土の先人に対する関心や理解を高め、郷土愛を培う一助となるよう企画した。

#### 〈展示内容〉

近世濃飛の偉人に焦点をあて、次の4コーナーに分けて、遺品や関係資料を展示した。

#### I. 文化を高める

岩村・大垣・高山での文教興隆の基盤を築いた人々や代表的文化人を通して、それぞれの文化の様相を紹介する。

紹介人物……松平乗紀・佐藤一斎・林述斎・丹羽瀨格庵(以上岩村)。戸田氏鉄・谷木困・戸田



氏庸・江馬蘭齋・江馬細香・飯沼愨齋(以上大垣)。金森長近・金森宗和・加藤歩簾・津野滄洲・田中大秀・赤田臥牛(以上高山)。

#### II. 開発に尽くす

近世県内の二大用水開鑿かいさくといわれる曾代用水と鱒淵用水ますぶちの全容と、工事を推進した人々の業績を紹介する。

紹介人物……柴山伊兵衛・喜田吉右衛門・林幽閑(以上曾代用水)。田口慶郷・加地勇次郎(以上鱒淵用水)。

#### III. 濃飛からはばたく

美濃・飛騨から広く日本及び世界に目をむけて活躍した人々を通して、彼らの先見性と業績を紹介する。



紹介人物……飛騨屋久兵衛倍行・倍正・倍安・益郷(以上蝦夷開発で活躍)。加藤素毛(幕末遣米使節の一員・世界一周)。田口俊平(日本初のオランダ留学生)。

#### IV. 抑圧と闘う

濃飛両国で起こった二大騒動である郡上宝暦騒動と大原騒動を通して、生活向上を願って抑圧と闘った濃飛の農民たちの生き方を紹介する。

紹介人物……前谷村定次郎・切立村喜四郎など(以上郡上宝暦騒動)。本郷村善九郎・大沼村久兵衛・忠次郎など(以上大原騒動)。

#### 〈関連事業〉

○特別展講演会

「近世濃飛の文化と人物」

10/25(日) 岐阜大学教授 松田 之利氏

○県博日曜講座

11/15(日)「大垣藩と岩村藩にみる文教政治」

○図録「近世に輝く濃飛の群像」(B5判39ページ)

## 〔資料紹介展〕

### 「食べられる野草」

12月9日(木)～1月24日(日)

植物は人々に薬や食料として広く利用されてきた。今では、ダイコン・ハクサイなど栽培ものをさす「野菜」という言葉は、「野の菜」すなわち、食用となる野草のことだったという。品種改良や栽培技術などの発達で「野菜」が簡単に入手できるようになって「野の菜」は忘れ去られようとしていた。しかし、近年になって春の七草に代表される野草を食卓にのせる人々も多くなってきた。この展示では、グルメ・自然食ブームの中で見直されてきた野生植物や古くから山里で食用とされてきた植物を、野草を中心に紹介し、自然を見直す機会にしていたくことを意図した。

#### 〈展示内容〉

3コーナーに分けて、館蔵実物資料 200点、図表パネル・カラーコピー写真パネル・自作や購入レプリカ等40点以上を展示した。

#### I. 人と野草

人と野草のかかわりについて、(1)山里の生活と野草、(2)野草の利用、(3)古代の食用植物の小テーマに分けて資料を紹介した。

##### (1)山里の生活と野草

石臼・蓑など山の生活用具、岐阜県の代表的な山菜分布図、代表的な山菜標本(乾燥・腊葉・液浸)

##### (2)野草の利用

保存・アク抜き・調理のコツなどの説明パネル、薬用・副食・非常食・嗜好品の各利用別に分けた標本(腊葉)・保存の方法を示す実物(乾燥・アルコール漬・塩漬・砂糖漬)

##### (3)古代の食用植物

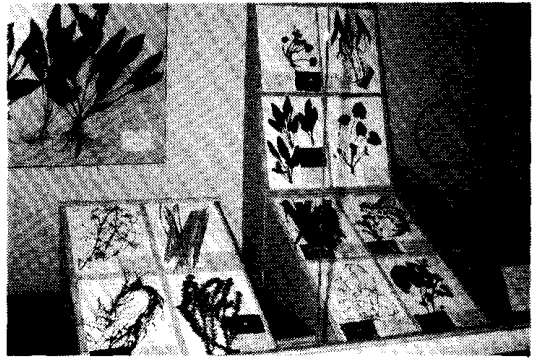
春の七草、古代米、万葉時代の食用植物の標本および説明パネル、和歌短冊

#### II. 食べられる野草

各種の文献より調査した食用となる野生植物の実物標本を産地別に(1)水辺や湿地、(2)平地、(3)山地に分けて紹介した。

##### (1)水辺や湿地

マコモ・オランダガラシ・サワオグルマなどの腊葉標本と生態写真



##### (2)平地

クズの大型実物乾燥品とクズの根、平地の普通植物のうち食用となる種類の腊葉標本、カラー写真パネル

##### (3)山地

タラの大型標本、モミジガサ・ニリンソウなどの腊葉、スミレのレプリカ標本、カラー写真パネル

#### III. 野草あれこれ

食べられる野草にかかわる話題を(1)あぶない野草、(2)売られる野草、(3)山菜ブームのかげで、(4)豊かな自然の恵みの小テーマに分けて紹介した。

##### (1)あぶない野草

トリカブトなど有毒植物の標本(腊葉・液浸)、自作レプリカ、カラー写真パネル

##### (2)売られる野草

土産物となっている山菜商品、統計図表

##### (3)山菜ブームのかげで

解説パネル、書籍類

##### (4)豊かな自然の恵み

解説パネル、カラー写真パネル

#### 〈関連事業〉

○県博日曜講座「食べられる野草」 1月17日(日)

○友の会共催「七草がゆを食べよう」1月10日(日)

○配布資料、パンフレット「食べられる野草」

(B 5判32ページ)

## 〔特別陳列〕

### 〔学校宝物展〕

2月16日(火)～3月31日(休)

それぞれの学校には、その地域とともに今まで歩んできた歴史と伝統があり、その学校にとって大切な記念品ともいべき品々がある。また、学校には、その地域のさまざまな文化遺産が寄せられることもあった。



本展では、飛騨・東濃・可茂地区の小・中学校76校で大切に保管されてきた宝物を公開した。そして、学校の果たしてきた役割の一端を紹介し、各学校への理解を深めるとともに、郷土の文化を再発見していただく一助になるよう企画した。

#### 〈主な展示構成〉

①絵画の部(玄関や図書室等に掲げられている油絵や水彩画、水墨画等)②書の部(校長室や郷土室等に掲げられている扁額や掛軸等)③歴史資料の部(学校の歴史を物語る学校日誌や表札、旧校舎の鬼瓦等)④教育成果の部(教育活動の成果である表彰状や盾、石琴等)⑤その他の部(学校へ寄せられ記念品として保管されている陶器や剥製等)

#### 〈主な展示資料〉

(1)青い目の人形 パッテロー(八百津町立和知小学校保管)

昭和2年、アメリカの世界児童親善協会から日本の子どもたちに友情のメッセンジャーとして贈られた青い目の人形。12,739体のうち多くは戦争中に処分されてしまったが、ひそかに全国で約210体残された。その貴重な1体。

(2)坪内逍遙愛用の品々(美濃加茂市立太田小学校保管)

美濃加茂市太田町で生まれた近代日本の文豪坪内逍遙が愛用した万年筆やペーパーナイフ、水指など。

(3)加藤幸兵衛作「赤地金襴手草花文花入」(多治

見市立南ヶ丘中学校保管)

岐阜県重要無形文化財保持者であった郷土の陶芸家加藤幸兵衛氏が寄贈した作品で、姉妹作は皇室へ献上されている。

(4)石琴(清見村立大原小学校保管)

清見村を流れる馬瀬川に産出する石を拾い集めて作ったもので、1人1～2音を分担して演奏する。



▲石琴 清見村立大原小学校保管

(5)成瀬誠志作「サビ釉鬼瓦」(中津川市立坂本小学校保管)

明治42年に坂本小学校が建築された時、雌雄、一對の鬼瓦として作成されたもので、茄子川焼の作品である。

(6)福井重一画「母校の風景」(七宗町立神淵小学校保管)

昭和22年、郷土の画家福井重一氏は、児童が遊ぶのどかな母校の風景を描いた。二科展出品作品。

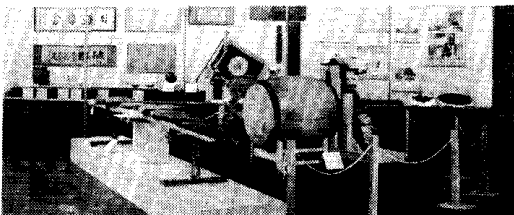
#### 〈展示資料数〉

絵画23点 書13点 歴史資料40点  
教育成果5点 その他12点 計93点

#### 〈出品校〉

飛騨地区小・中学校26校 東濃地区小・中学校36校 可茂地区小・中学校14校 計76校

本展の出品資料について、各小・中学校から200字以内の原稿をいただき、それをもとに展示解説をし、解説書を作成した。



## 〔調査研究・資料収集活動〕

### 一 自然部門一

#### 1. 調査研究

##### 〈動物分野〉

##### (1) 奥美濃の調査及び資料収集(動物)

昨年引き続き奥美濃地方の動物調査を行った。本年度は、能郷白山における小型哺乳動物に重点を置き、能郷部落より頂上に向かう登山道を中心に調査した。収集した主な資料は、ヒメネズミ、ヒミズなどであった。

##### (2) 奥美濃の調査及び資料収集(昆虫)

本年度は能郷白山地域を中心とした昆虫類の調査を行った。収集した主な資料は、アオバセセリ、アサギマダラ、ツマジロウラジャノメ、イツホシテントウダマシ、クロコキノコムシダマシ、ハスオビオオキバハネカクシ、アラメヒメマキムシモドキ、モンキナガクチキムシであった。

##### (3) 百年公園及び周辺の昆虫調査

ヒトクチャケに生息する<sup>しゅうしゅう</sup>昆虫の生態を調査した。成果の一部は「調査研究報告」第14号、「第52回日本昆虫学会・第36回日本応用動物昆虫学会合同大会」で発表する予定である。

この他に、アカハバビロオオキノコの生活環の調査も実施した。

##### 〈植物分野〉

##### (1) 奥美濃の調査及び資料収集

揖斐郡(坂内村夜叉ヶ池登山道・藤橋村徳山地域)、本巣郡根尾村能郷、山県郡美山町、武儀郡(武儀町・武芸川町・上之保村)・郡上郡(美並村・八幡町・大和町・白鳥町・和良村)において資料収集・写真撮影を行った。収集資料は特別展用に保管した。

##### (2) 失われゆく植物の調査及び資料収集

関市内の水域(水田・湿地・溜池・河川)を中心に、資料収集・写真撮影を行った。これらの資料は展示用に保管している。

##### (3) 食べられる野草関係の資料収集

中津川市、白川村、高根村等において毒草トリカブト類をはじめ食べられる野草の各種を採集、関市周辺地域にてその他の食用となる植物

を多数採取し、資料とした。

##### (4) スミレ属等の植物資料収集と目録作成

岐阜県産スミレ属植物の調査にかかわり、本県産のほとんどの種類を収蔵・登録した。特にツルタチツボスミレ、ミヤマスミレの新産地を確認した。目録は「調査研究報告」14号で発表。

##### 〈地学分野〉

##### (1) 奥美濃の調査及び資料収集

本巣郡根尾村根尾東谷川流域及び、能郷白山山麓、能郷川流域の岩石の概況を「地質図、岐阜」(工業技術院地質調査所発行)を基に実施し、資料の収集、写真撮影を行った。収集資料は特別展資料として保管した。

##### (2) 岐阜県恐竜化石学術調査

平成元年、岐阜県大野郡白川村大白川上流域で恐竜足跡化石が発見されたのを機会に、平成2年4月より学術調査団が結成された。本年度はこの調査団の最終年度としての活動を行った。

調査には、1年次より継続の15名に、白川村教育委員会より派遣の2名を含む17名で当たった。

現地調査は、白川村・荘川村で8回、延日数21日(内白川村3回、延日数7日)実施した。調査活動は、化石班、地質班の2班に分かれ、同じ日に行動した。

調査内容は、化石班が白川村大白川上流域および荘川村尾上郷川流域において、恐竜化石を中心に化石調査を行い、地質班が荘川村尾上郷川下流域の地質精査と上流域において地質調査および絶対年代測定用岩石の調査を行った。

調査結果及び成果は「恐竜化石学術調査報告書」で発表した。



▲尾上郷川支流大黒谷での調査風景

## 2. 資料数一覧

(平成5年3月31日現在)

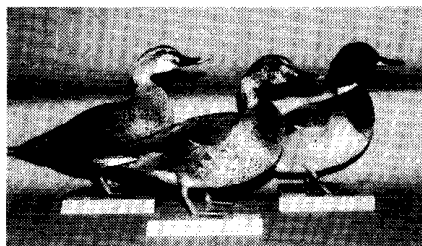
分野	館 蔵				借用	寄託	計
	実物	複製	移管・自作 その他	寄贈 (内数)			
動物	30,588	16	129	(16,579)	0	0	30,733
植物	15,197	50	190	(1,269)	0	0	15,437
岩石・鉱物	2,059	5	73	(542)	18	0	2,155
化石	1,982	35	20	(1,078)	47	28	2,112
その他	63	22	168	(21)	0	0	253
計	49,889	128	580	(19,489)	65	28	50,690

## 3. 資料寄贈芳名一覧 (敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
ハグロケバエ他	6	宮崎 淳	ツグミ	1	高木正弘	クロジ他	2	小林すみゑ
タマムシ	1	大沢真美	シロハラ	1	山田良司	キビタキ	1	清水とね
モンキゴミシダマン	10	布村公一	〃	1	須田正治	アオゲラ	1	青木雅子
オニクワガタ	1	杉山政広	フクロウ	1	中田宇元	オオコノハズク	1	村井敏郎
海・陸産貝類	95	荒古健助	バトン	1	田中義一	コムクドリ	1	清水とね
オオジャコガイ	1	仙波 正	カワラヒワ	1	矢橋 真	カブトガニ	2	徳市 茂
イノシシ頭骨	1	高橋 邦之	ヤブサメ	1	金古弘之	ヒメシゴケ・ヤナギ他	38	宮崎 淳
センザンコウ	1	熊沢良平	コゲラ	1	須田正治	マクワウリ液浸	2	〃
ツキノワグマ仔	2	竹内照夫	ヤマガラ	1	大野晴久	県内産植物標本	273	二村延夫
ホンドタヌキ	1	柴田佳章	トラツグミ他	2	小林すみゑ	飛騨地方産植物	956	長瀬秀雄
イノシシ剥製	1	中原 良	ウグイス	1	山田良司	マンガン鉱石	4	黒田秀夫
コウベモグラ他	3	小椋郁夫	カワセミ	1	佐藤佑磨	四放サンゴ(化石)	1	乾 信
モモジロコウモリ	1	山本輝正	〃	1	高井 税	湯ヶ峰デイサイト(下呂石)	1	栃本 萬寿
ヌートリア	1	藤井鉄三郎	〃	1	柴田佳章	地層剥製標本	5	市村俊廣
アズマモグラ	1	矢橋 真	メボソムシクイ	1	荒井 浩			
アライグマ	1	尾関文吉	ニホンキジ	1	矢野憲彦			
ニホンアカガエル	1	可児幸彦	オオジロ	2	柴田佳章			



▲イノシシの頭骨



▲カモの剥製

— 人 文 部 門 —

1. 調査研究

〈考古分野〉

- 平成4年度特別展「飛驒のあけぼの」に向けて飛驒地域の縄文～古代の遺跡及び出土品の調査研究。図録にまとめる。

〈歴史分野〉

- 平成4年度特別展「近世に輝く濃飛の群像」に向けての調査研究。図録にまとめる。

〈美術・工芸分野〉

- 平成5年度特別展「土と炎の芸術—ふるさと

に息づく技と心—」に向けて、「美濃の焼き物の流れ」及び県内各地において「今なお息づいて焼かれている焼き物」「かつて焼かれていた焼き物」についての調査研究。

- 平成5年の干支“酉”にちなみ、常設展の一部(絵画・磁器)展示替えを行った。

〈民俗分野〉

- 平成4年度特別陳列「学校宝物展」に向けての調査研究。冊子にまとめる。
- 平成6年度特別展「川の民俗」に向けての調査研究。

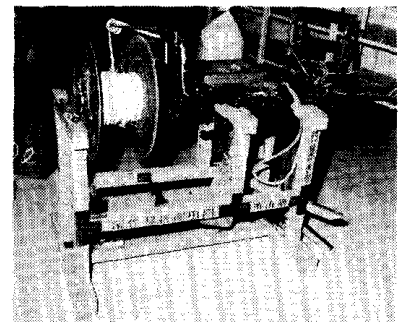
2. 資料数一覧

分野	館 蔵				借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	その他	寄 贈 (内数)			
考 古	1,993	164	52	(1,797)	592	186	2,987
歴 史	1,183	32	122	(1,170)	21	163	1,521
民 俗	2,010	2	9	(2,010)	213	30	2,264
美術・工芸	226	17	37	(172)	274	1,248	1,802
そ の 他	0	0	0	(0)	0	1	1
計	5,412	215	220	(5,149)	1,100	1,628	8,575

複製には模型・ジオラマを含む (平成5年3月31日現在)

3. 資料寄贈者芳名一覧 (敬称略・順不同)

資 料 名	点数	芳 名
タイサンビン、ユタンボ等	4	渡 辺 孝
ケバトリキ、ツキブルイ	2	井 戸 則 夫
製 繩 機	1	酒 井 正 彦



▲製繩機

## 〔教育普及活動〕

### 1. 概略

4年度は、前年度に引き続き広報活動に力を入れるとともに、昨年度の反省に基づき案内解説を多くし教育活動の充実に努めた。「ジュニア恐竜探検隊」は、本年度第1回を昨年度参加者が少なかった東濃・飛騨地区を対象に実施した。また、学校5日制の実施に伴い、9月より第2土曜日に「たのしい土曜教室」を実施した。

### 2. 教育活動

教育活動のうちの一つ、土・日曜日の催しものには、今年も別表(P25)のような多くの参加者があった。参加者の延べ人数は2,366人、1回平均69.6人であった。

新しい試みとしては、「たのしい土曜教室」と「七草がゆを食べよう」の二つがあげられる。平成4年9月から、学校5日制の実施に伴い月の第2土曜日が休みになった。本館では、それに対応し第2土曜日に「たのしい土曜教室」を実施した。この日には、例年より来館者が多く、土曜教室も好評であった。「七草がゆを食べよう」は、資料紹介展「食べられる野草」にちなんで新たに企画された行事である。友の会会員の協力も得て、来館者に七草がゆをふるまったが、2時間で用意した200食がなくなった。

「ジュニア恐竜探検隊」は、第1回を東濃・飛騨地区対象とし26人の参加を得た。残り22人は他の地区から参加してもらった。第2回は岐阜地区などから46人の参加を予定していたが、台風のため中止となった。応募者は合計130人であった。参加者には昨年同様好評であった。

館内の教育活動としては、昨年の反省をふまえて、解説員による展示解説に力を入れた。日曜日には恐竜イグアノドンと恐竜足跡化石の解説を常時行い、特別展・資料紹介展期間中の日曜日にはさらに特別展・資料紹介展の展示解説を行った。特に夏休みの特別展「恐竜一謎とロマン」の期間中は来館者も多く、ほとんど毎日数回展示解説を行った。

### 3. 解説員研修

解説員の入れ替わりにより、解説経験の浅い

人が多くなったので例年より多い29回の研修を行った。展示解説も昨年以上に多く行った。

### 4. 広報活動

恒例の広報活動以外に、本年も郡市校長会への出張広報や、自治会を通しての関市各家庭へのちらし回覧を行った。また、本年度より資料紹介展にもポスターを作成し広報に努めた。新聞連載も従来通り実施した。

昨年度末より開始した名古屋市北西部の小中学校への広報は、本年度も引き続き実施した。

### 5. 資料の貸し出し

他館での展示会等に貸し出した主な資料

#### (1)自然

- 名古屋市博物館(12.18~H5.2.13)  
ホンシュウジカ・イノシシ剥製 2点
- 岐阜市立合渡小学校(4.8~H5.2.3の間  
に5回に分けて)  
ハシボソガラス・ヒバリなど剥製 13点
- 岐阜市少年自然の家(6.5~7.7)  
スライド(シオカラトンボなど) 33点
- 暁教育図書株式会社(7.11~9.29)  
スライド(ウシガエルなど) 14点
- 揖斐郡教育会(7.24~9.24)  
スライド(ツキノワグマなど) 33点
- 多治見市教育研究所(12.28~H5.2.28)  
スライド(カルガモなど) 25点

#### (2)人文

- 安土城考古博物館(10.20~12.5)  
複製「斎藤道三画像」 1点  
〃 「斎藤義龍画像」 1点
- 高富小学校(11.19~12.7)  
模擬銃など 22点
- 岐阜県美術館(11.23~H5.1.27)  
林雲鳳画「斎藤道三画像」 1点
- 名古屋市博物館(12.18~H5.2.13)  
川辺町出土弥生中期甕形土器 1点
- 神戸市立博物館(H5.1.15~3.11)  
十六銅鐸 1点
- 加藤栄三・東一記念館(H5.3.10~4.28)  
藤田孝屯作「美濃国徳山深雪幻図」 1点

### 6. 博物館実習生指導

愛知学院大学の学生3名、三重大学の学生2

名、岐阜女子大学の学生1名、日本福祉大学の学生1名、愛知大学の学生1名、計8名を指導した。

### 7. 図書資料

図書資料室と郷土学習室では約22,000冊の本を開架式で来館者の利用に供している。購入による収集のほか、他館との交換、寄贈等により年々資料は充実してきている。友の会からは、「国史大辞典」3巻の寄贈を受けた。

### 8. 刊行物

本年度刊行した出版物等は下記の通りである。

### 9. 視聴覚関係

郷土学習室では常時ビデオを上映した。特別展「恐竜—謎とロマン—」では関連ビデオを上映した。また、高山市教育委員会・日本国際宇宙協議会・県教育委員会文化課・日本視聴覚教材センターより合計12本のビデオの寄贈を受けた。(内、文化課からは地歌舞伎ビデオ8本)友の会からはレクチャーテーブル・ワイヤレスアンプの寄贈を受けた。

### 10. 視聴障害者(触察)コーナー

岐阜工業高等学校・岐阜盲学校の御協力を得て点字解説板を新しい丈夫なものにすることができた。

## 平成4年度 刊行物一覧

名 称	発行年月日	判・頁	部 数	備 考
岐阜県博物館だより 第47号	4. 4. 1	B 5 4頁	2,500	友の会増刷 (各500部)
〃 第48号	4. 7. 1	〃 〃	〃	
〃 第49号	4. 10. 1	〃 〃	〃	
岐阜県博物館報 第15号	4. 4. 1	B 5 32頁	750	増刷 岐阜県恐竜化石学術 調査推進委員会発行
岐阜県博物館リーフレット	4. 10. 30	A 4	15,000	
恐竜化石学術調査報告書	5. 3. 5	B 5 85頁	500	
岐阜県博物館調査研究報告 第14号	5. 3. 31	B 5 52頁	700	
平成4年度岐阜県博物館催しもの案内	5. 4. 1	B 4 表裏	30,000	
〃	〃	B 3 表	4,200	
特別展図録				友の会増刷 (3,000) (620) (500)
飛驒のあけぼの	4. 4. 21	B 5 70頁	600	
恐竜—謎とロマン—	4. 7. 14	B 5 36頁	600	
近世に輝く濃飛の群像	4. 10. 20	B 5 39頁	600	
特別展等ポスター・ちらし				友の会発行 〃 〃 〃 〃
飛驒のあけぼの(ポスター)	4. 4. 1	B 2	1,450	
〃(ちらし)		B 5	(20,000)	
恐竜—謎とロマン—(ポスター)	4. 6. 22	B 2	1,500	
〃(ちらし)		B 5	(20,000)	
近世に輝く濃飛の群像(ポスター)	4. 9. 30	B 2	1,500	
〃(ちらし)		B 5	(20,000)	
食べられる野草(ポスター)		B 3	(1,000)	〃
学校宝物展(ポスター)	5. 1. 22	B 3	1,000	〃
資料紹介展・特別陳列パンフレット				
食べられる野草	4. 12. 9	B 5 30頁	2,000	
学校宝物展	5. 2. 16	B 5 39頁	2,000	
絵はがき				友の会発行
恐竜足跡化石、イグアノドン骨格化石			(各1,000)	

### 特別展等ビデオ

7/14～9/6	特別展関連ビデオ「たのしいきょうりゅうたち」
----------	------------------------



平成4年度 催しもの一覧

事業名	期日	対象	定員	内 容	参加人数
特別展シンポジウム	5/17	一 般		飛驒からみた石器と土器の交流 高山考古学研究会 石原哲彌氏 吉朝則富氏 高山市教委 田中 彰氏 国府町教委 岩花秀明氏	111
特別展講演会	5/31	"		川合遺跡群(飛驒川・木曾川合流点)を掘って 日本考古学協会会員 吉田英敏氏	117
"	8/2	"		恐竜はなにをみたか 岐阜大学教授 梶田澄雄氏	100
"	8/16	"		恐竜一謎とロマン 横浜国立大学教授 長谷川善和氏	110
"	10/25	"		近世濃飛の文化と人物 岐阜大学教授 松田之利氏	93
文化講演会	11/3	"		武将と美濃鍛冶 (友の会共催) 東京国立博物館刀剣室長 小笠原信夫氏	173
県博日曜講座	4/19	小学生以上一般		美しい貝	31
"	6/7	一 般		両面宿禰の時代	59
特別講座	7/18	小学生以上一般		恐竜の生きていたころ(対象:東濃・飛驒地区 会場:恵那 総合庁舎・飛驒総合庁舎)	東濃17 飛驒18
"	7/19	"		恐竜の生きていたころ (対象:東濃・飛驒以外の地区 会場:岐阜県博物館)	167
県博日曜講座	9/6	一 般		木曾三川の水運	12
"	11/15	"		大垣藩と岩村藩にみる文教政治	32
"	1/17	小学生以上一般		食べられる野草	115
自然観察会	4/29	小学生以上一般	50人	観察のこみちの樹木を調べよう (グリーンアドベンチャー事業)	39
"	5/24	親子・一般	30人	水生昆虫を調べよう	31
"	3/7	小学校以上一般	40人	野鳥をみよう	27
ジュニア恐竜探検隊	7/25 ~26	親 子	50人	恐竜のふるさとをたずねよう (対象:東濃・飛驒地区) 宿泊:白川郷ロッジ	48
"	8/8 ~9	"	50人	恐竜のふるさとをたずねよう (対象:東濃・飛驒以外の地区) 宿泊:白川郷ロッジ	中止
親子教室	5/5	親 子	50人	やきもの(1)(施文具と土器をつくろう)	60
"	6/14	"	30人	昆虫標本をつくろう	41
"	6/21	"	50人	やきもの(2)(日用品をつくろうー施釉ー)	53
"	8/9	"	40人	火おこし器をつくろう	61
"	8/23	"	30人	化石のクリーニングをしよう	29
"	8/30	"	50人	竹細工(箆・竹とんぼをつくろう) 竹細工師 石原文雄氏	中止
"	12/6	"	30人	版画(年賀状をつくろう)	45
"	12/13	"	50人	凧づくり(つくって揚げよう) 竹細工師 石原文雄氏	56
"	12/20	"	50人	わら細工(しめなわをつくろう) わら細工師 大野仁久氏	48
写生会	2/14	小学生以上一般	100人	博物館資料をかこう(甲冑・土器・鳥・動物など)	50
ふるさと探訪	3/20	親子・一般	37人	真桑文楽をたずねて	37
民俗芸能	5/3	小学生以上一般		関孫六太鼓(雨天時5/4に順延)	約800
たのしい土曜教室	9/12	小中学生と親	50人	博物館を探検しよう	約110
"	11/14	"	"	江戸時代に活躍したふるさとの偉人を知ろう	60
"	12/12	"	"	縄文時代や古墳時代の映画をみよう	49
"	1/9	"	"	食べられる野草を知ろう	77
"	2/13	"	"	野鳥を観察しよう	53
"	3/13	"	"	ふるさとの学校の宝物をみよう	27
(特別行事)	1/10	小学生以上一般	200人	七草がゆを食べよう	210

## 〔図書資料寄贈者芳名一覧〕

(平成4年4月1日～  
平成5年3月31日)

### 〔博物館関係〕

国立歴史民俗博物館  
国立国会図書館  
国立科学博物館附属自然教育園  
国立科学博物館  
衆議院憲政記念館  
東京国立近代美術館  
東京国立博物館  
京都国立博物館  
国立民族学博物館  
岐阜県博物館  
岐阜県美術館  
岐阜県立図書館  
岐阜県歴史資料館  
岐阜市歴史博物館  
揖斐川町歴史民俗資料館  
大垣市歴史民俗資料館  
大垣市郷土館  
各務原市歴史民俗資料館  
岐阜県陶磁資料館  
岐阜市科学館  
内藤記念くすり博物館  
土岐市美濃陶磁歴史館  
瑞浪市化石博物館  
瑞浪陶磁資料館  
高山市郷土館  
飛騨の山樵館  
浦幌町郷土博物館  
小樽市青少年科学技術館  
小樽市博物館  
上士幌町ひがし大雪博物館  
釧路市立博物館  
釧路幌芸術の森  
知床博物館  
苫小牧市博物館  
根室市博物館開設準備室  
市立函館博物館  
北海道開拓記念館  
北海道立北方民俗博物館  
穂別町立博物館  
利尻町立博物館  
青森県立郷土館  
八戸市博物館  
岩手県立博物館  
岩手県農業博物館  
(財)斎藤報恩会 自然史博物館  
塩竈神社博物館  
仙台市博物館  
仙台市科学館  
仙台市歴史民俗資料館  
東北歴史資料館  
秋田県立博物館  
秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館

山形県立博物館  
山形大学附属博物館  
会津民俗館  
須賀川市立博物館  
福島県立博物館  
茨城県立歴史館  
土浦市立博物館  
日立市郷土博物館  
小山市立博物館  
栃木県立博物館  
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館  
大間々町歴史民俗館(コノコンド館)  
群馬県立歴史博物館  
群馬県立近代美術館  
浦和市立郷土博物館  
行田市郷土博物館  
埼玉県立博物館  
埼玉県立民俗文化センター  
埼玉県立歴史資料館  
埼玉県さきたま資料館  
埼玉県立自然史博物館  
狭山市立博物館  
戸田市立郷土博物館  
我孫子市 鳥の博物館  
市立市川考古博物館  
市川自然博物館  
君津市立久留里城址資料館  
千葉県立中央博物館  
千葉市立郷土博物館  
千葉県立房総風土記の丘  
千葉県立房総のむら  
千葉県立大根博物館  
千葉県立上総博物館  
千葉県立安房博物館  
千葉県立総南博物館  
千葉市加曾利貝塚博物館  
船橋市郷土資料館  
足立区立郷土博物館  
板橋区立教育科学館  
板橋区立郷土資料館  
江戸東京博物館  
大田区立郷土博物館  
家具の博物館  
紙の博物館  
国学院大学考古学資料館  
サントリー美術館  
渋谷区立松涛美術館  
世田谷区立郷土資料館  
たばこと塩の博物館  
調布市郷土博物館  
通信総合博物館  
東京農工大学附属繊維博物館  
東京富士美術館  
東京都高尾自然科学博物館  
豊島区立郷土資料館  
八王子市郷土資料館

府中市郷土の森博物館  
福生市郷土資料室  
船の科学館  
町田市立博物館  
町田市立国際版画美術館  
三井文庫  
港区立港郷土資料館  
明治大学考古学博物館  
明治薬科大学 明薬資料館  
郵政省郵政研究所附属資料館  
神奈川県立博物館  
神奈川県立金沢文庫  
鎌倉国宝館  
川崎市市民ミュージアム  
相模原市博物館建設事務所  
シルク博物館  
茅ヶ崎市文化資料館  
根岸競馬記念公園馬の博物館  
箱根町立大涌谷自然科学館  
秦野市立桜土手古墳展示館  
平塚市博物館  
横浜マリタイムミュージアム  
横須賀市自然人文博物館  
櫛形町立春仙美術館  
山梨県立美術館  
山梨県立考古博物館  
飯田市美術博物館  
追分郷土館  
大町山岳博物館  
信濃町立野尻湖博物館  
長野市立博物館  
松本市立博物館  
魚津水族館  
富山市郷土博物館  
富山県立山博物館  
富山市科学文化センター  
石川県立博物館  
石川県立歴史博物館  
石川県立美術館  
石川県白山自然保護センター  
石川県輪島漆芸美術館  
小松市立博物館  
(財)成巽閣  
松任市立博物館  
福井県立博物館  
福井市立郷土歴史博物館  
福井県自然保護センター  
福井県立若狭歴史民俗資料館  
(財)原弘教美術館  
静岡県立美術館  
下田海中水族館  
東海大学海洋科学博物館  
沼津歴史民俗資料館  
沼津市明治史料館  
浜松市博物館  
浜松市伊場遺跡資料館

富士市立博物館  
藤枝市郷土博物館  
三島市郷土館  
焼津市歴史民俗資料館  
愛知県陶磁資料館  
熱田神社宝物館  
安城市歴史博物館  
一宮市博物館  
岡崎市教育委員会岡崎市郷土館  
荻須記念美術館  
蒲郡市博物館  
佐屋町立杉野図書館  
瀬戸市歴史民俗資料館  
知立市歴史民俗資料館  
でんきの科学館  
徳川美術館  
豊橋市美術博物館  
豊橋市自然史博物館  
豊橋市地下資料館  
豊橋市二川宿本陣資料館  
豊橋市郷土資料館  
トヨタ博物館  
名古屋市見晴台考古資料館  
名古屋市科学館  
名古屋市博物館  
南山大学人類学博物館  
日本モンキーセンター附属博物館  
尾西市歴史民俗資料館  
鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館  
三好町立歴史民俗資料館  
博物館明治村  
リトルワールド  
桑名市博物館  
斎宮歴史博物館  
真珠博物館  
鳥羽水族館  
藤原岳自然科学館  
大津市歴史博物館  
滋賀県立琵琶湖文化館  
滋賀県立安土城考古博物館  
(助)滋賀県陶芸の森  
長浜市立長浜城歴史博物館  
彦根城博物館  
琵琶湖博物館開設準備室  
野洲町立歴史民俗資料館  
栗東歴史民俗博物館  
京都市考古資料館  
京都府京都文化博物館  
京都府立総合資料館  
京都府立丹後郷土資料館  
京都工芸繊維大学美術工芸資料館  
大阪市立東洋陶磁器美術館  
大阪市立科学館  
大阪市立博物館  
大阪市立自然史博物館  
大阪人権歴史資料館  
大阪府立弥生文化博物館  
柏原市立歴史資料館  
岸和田市立郷土資料館

堺市博物館  
吹田市立博物館  
東大阪市立郷土博物館  
明石市立文化博物館  
尼崎市立文化財収蔵庫  
尼崎市歴史博物館準備室  
伊丹市立博物館  
神戸市立博物館  
神戸市立小磯記念美術館  
(助)武井報効会 百耕資料館  
姫路文学館  
兵庫県立人と自然の博物館  
兵庫県立歴史博物館  
橿原市千塚資料館  
春日大社  
天理大学附属天理参考館  
奈良県立橿原考古学研究所付属博物館  
奈良県立民俗博物館  
大和文華館  
和歌山市立博物館  
和歌山県立自然博物館  
鳥取県立博物館  
足立美術館  
奥出雲多根自然博物館  
岡山県立美術館  
岡山市立オリエンタ美術館  
岡山県立博物館  
岡山県自然保護センター  
倉敷市立自然史博物館  
津山洋学資料館  
日本はきもの博物館  
広島県立歴史博物館  
広島県立歴史民俗資料館  
宮島町立宮島歴史民俗資料館  
安佐動物公園  
町立秋吉台科学博物館  
美祢市歴史民俗資料館  
山口県立山口博物館  
徳島県立博物館  
徳島市立徳島城博物館  
高松市歴史資料館  
愛媛県立博物館  
松山市考古館  
高知市立自由民権記念館  
高知県立歴史民俗資料館  
北九州市立歴史博物館  
北九州市立考古博物館  
北九州市立自然史博物館  
九州歴史資料館  
鞍手町歴史民俗資料館  
福岡市博物館  
佐賀県立博物館／美術館  
長崎県立美術館  
長崎市立博物館  
熊本県立美術館  
熊本市博物館  
大分県立佐佐風土記の丘  
別府大学附属博物館  
宮崎県総合博物館

鹿児島県立博物館  
鹿児島市立美術館  
鹿児島市歴史資料センター黎明館  
名護博物館

#### 【博物館協会】

全国科学博物館協議会  
日本博物館協会  
埼玉県博物館連絡協議会  
神奈川県博物館協会  
静岡県博物館協会  
愛知県博物館協会  
三重県博物館協会  
鳥取県博物館協会  
岡山県博物館協議会  
山口県博物館協議会

#### 【役所関係】

武儀県事務所  
関市役所  
可児市役所  
土岐市役所  
川島町役場  
高富町役場  
北方町役場  
平田町役場  
春日村役場  
藤橋村役場  
八幡町役場  
萩原町役場  
岐阜市文化センター  
岐阜市図書館  
各務原市民会館  
美濃加茂市文化会館  
多治見市文化会館  
上平村役場  
平村役場  
名古屋営林支局

#### 【教育委員会関係】

岐阜県教育委員会  
美濃教育事務所  
東濃教育事務所  
岐阜県小中学校長協会  
岐阜県PTA連合会  
岐阜県高等学校教育研究会  
岐阜県高等学校長協会  
岐阜県教育センター  
岐阜県情報処理教育センター  
岐阜教育会  
岐阜県校長会館  
岐阜市教育委員会  
大垣市教育委員会  
美濃加茂市教育委員会  
可児市教育委員会  
多治見市教育委員会  
恵那市教育委員会  
中津川市教育委員会  
高山市教育委員会

養老町教育委員会  
関ヶ原町教育委員会  
武儀町教育委員会  
美並村教育委員会  
富加町教育委員会  
御嵩町教育委員会  
福岡町教育委員会  
付知町教育委員会  
岩村町教育委員会  
萩原町教育委員会  
馬瀬村教育委員会  
古川町教育委員会  
北海道教育庁生涯学習部  
北見市教育委員会  
土浦市教育委員会  
千葉県教育庁博物館準備室  
世田谷区教育委員会  
東京都生涯学習部  
八王子市教育委員会  
福生市教育委員会  
港区教育委員会  
神奈川県教育庁文化財保護課  
相模原市教育委員会  
横浜市教育委員会  
飯田市教育委員会  
岡谷市教育委員会  
長野市教育委員会  
山北町教育委員会  
袋井市教育委員会  
藤枝市教育委員会  
稲沢市教育委員会  
瀬戸市教育委員会  
知立市教育委員会  
豊橋市教育委員会  
三好町教育委員会  
亀山市教育委員会  
津市教育委員会  
四日市市教育委員会  
滋賀県教育委員会  
山東町教育委員会  
能登川町教育委員会  
日野町教育委員会  
大阪府教育委員会  
豊中市教育委員会  
尼崎市教育委員会  
橿原市教育委員会  
長崎県教育委員会  
大分県教育委員会

〔学校関係〕

梅林小学校PTA  
岐南町立北小学校  
岐阜県小学校社会科研究会  
岐阜北高等学校  
羽島高等学校  
羽島北高等学校  
不破高等学校  
郡上高等学校  
関商工高等学校

加茂高等学校  
恵那高等学校  
岐阜県高等学校生物研究会  
岐阜県高等学校地理研究会  
岐阜県高等学校理科助手研究会  
岐阜大学教育学部  
岐阜薬科大学  
岐阜市立女子短期大学  
岐阜経済大学  
岐阜女子大学  
岐阜教育大学  
東海女子大学  
聖徳学園女子短期大学  
中京短期大学  
筑波大学歴史人類学研究所  
図書館情報大学附属図書館  
川村学園女子大学図書館  
お茶の水女子大学学芸員課程  
学習院大学  
国学院大学博物館学研究室  
実践女子大学 博物館学研究室  
多摩美術大学  
東京大学地震研究所  
東京農業大学農業資料室  
日本大学文理学部応用地学教室  
武蔵野美術大学  
立教大学学芸員課程研究室  
早稲田大学図書館  
神奈川大学日本常民文化研究所  
日本大学農獣医学部資料館  
帝京大学山梨文化財研究所  
金沢大学理学部附属植物園  
金沢美術工芸大学附属図書館  
静岡大学理学部地球科学教室  
愛知大学総合郷土研究所  
愛知大学文学部  
市邨学園大学人文科学研究会  
市邨学園短期大学地域社会研究会  
名古屋大学古川総合研究資料館  
名古屋大学文学部美学美術史研究室  
名古屋経済大学自然科学研究会  
名古屋造形芸術大学附属図書館  
南山大学古渡城発掘調査会  
日本福祉大学社会福祉総合研修センター  
京都精華大学  
同志社大学博物館学芸員課程  
仏教大学総合研究所  
立命館大学文学部  
大阪大学文学部 考古学研究室  
関西大学考古学等資料室  
関西大学博物館学課程  
九州産業大学芸術学会

〔研究機関・出版社・その他〕

科学技術庁  
宮内庁書陵部  
東京国立文化財研究所  
神宮司庁  
宮内庁正倉院事務所

奈良国立文化財研究所  
奈良国立文化財研究所飛鳥資料館  
揖斐郡教育会  
江馬文書研究会  
大垣市スイトピア  
各務原市埋蔵文化財調査センター  
金森公顕彰会  
岐阜県企画部統計課  
岐阜県郷土資料研究協議会  
岐阜県文化財保護協会  
岐阜県歴史資料保存協会  
岐阜昆虫同好会  
岐阜県文化財保護センター  
岐阜県文化財保護協会大野支部  
岐阜県哺乳動物調査研究会  
岐阜コンベンション推進協議会  
岐阜国際交流センター  
岐阜県広報センター  
岐阜県公害研究所  
農業総合研究センター  
岐阜メモリアルセンター  
岐阜地区市民生活共同組合活動事務局  
岐阜県デザイン振興会  
岐阜県工業技術センター  
工芸試験場  
生涯教育センター  
岐阜市少年自然の家  
関ヶ原青少年自然の家  
土岐少年自然の家  
御獄少年自然の家  
創価学会岐阜文化会館  
高山女性史学習会  
多治見市文化財保護センター  
中山道加納宿文化保存会  
津田左右吉博士顕彰会  
東海地理研究会  
南宮ものがたり刊行委員会  
飛騨高山天領三百年事業実行委員会  
飛騨植物研究会  
藤橋校百二十年史編集委員会  
南長森郷土史会  
美濃民俗文化の会  
美濃文化財研究会  
美濃陶芸協会  
やませみの会  
養老町文化財保護協会  
よろいの館  
霊山顕彰会岐阜県支部  
北網圏北見文化センター  
青森県埋蔵文化財調査センター  
あきた結び文化研究会  
(財)いわき市教育文化事業団  
福島市児童文化センター  
地質調査所  
(財)栃木県埋蔵文化財センター  
野外の表現展実行委員会  
(財)千葉県文化財センター  
日本考古学研究所  
大島和泉浜遺跡調査団

葛飾区遺跡調査会  
ギャラリーS V A X  
国画会事務局  
国立科学博物館植物研究部  
御殿山遺跡調査会  
社会教育研修所  
青少年交友協会  
統群書類従完成会  
調布市原山遺跡調査会  
東京貝類同好会  
東京都埋蔵文化財センター  
東京美術  
東北新幹線赤羽地区遺跡調査会  
都営川越道住宅遺跡調査会  
日本ナショナルトラスト  
日本宇宙少年団  
日本菌学会  
日本民俗学会  
日本美術刀剣保存協会  
勸日本視聴覚教材センター  
農山漁村文化協会  
㈱乃村工藝社 文化環境研究所  
P I S A ギャラリー紀尾井町  
ポーラ文化研究所  
武蔵野国分寺関連遺跡調査会  
八重根遺跡大島和泉浜遺跡調査団  
泉警察建設用地内遺跡発掘調査団  
今田遺跡発掘調査団  
大谷真鯨遺跡調査団  
神奈川県立埋蔵文化財センター  
相模原市動植物調査会  
全日本博物館学会  
玉川文化財研究所  
東海大学校地内遺跡調査団  
吉久保遺跡発掘調査団  
日本民家園内民具製作技術保存会  
勸平岡環境科学研究所  
文化映像研究会  
勸横浜市青少年科学普及協会  
長野県埋蔵文化財センター  
富山県文化振興財団  
富山県埋蔵文化財センター  
勸富山市ファミリーパーク公社  
愛知県芸術文化センター  
愛知県埋蔵文化財センター  
佐屋町史編集委員会  
中部建設協会  
中部蜘蛛懇談会  
名古屋植物防疫所  
美術文化史研究会  
木曾川下流工事事務所  
木地屋とろくろ研究所  
滋賀民俗学会  
滋賀県埋蔵文化財センター  
日本イヌワシ研究会  
勸京都服飾文化研究財団  
国際日本文化研究センター  
財団法人古代学協会  
濱田耕作先生著作集刊行委員会

大阪文化財センター  
勸大阪府埋蔵文化財協会  
クボタ  
地花会  
日本生命財団  
勸黒川古文化研究所  
淡神文化財協会  
のじぎく文化財保護研究財団  
元興寺文化財研究所  
桜井市立埋蔵文化財センター  
帝塚山考古学研究所  
備前刀學會  
広島市歴史科学教育事業団  
九州古文化研究会  
福岡市埋蔵文化財センター  
未来の森ミュージアム  
鹿児島県立埋蔵文化財センター  
北白川書房  
郡上史談  
サンメッセ株式会社  
書道心画院  
中広  
西美濃わが街社  
美濃揖斐谷通信編集室  
岩波書店  
株式会社 講談社  
株式会社ココロ  
新潮社  
新人物往来社  
世界の動き社  
第一法規出版株式会社  
東京書籍  
日本美術刀剣新聞社  
ぴあ株式会社  
名古屋鉄道株式会社広報宣伝部  
名古屋テレビ放送株式会社  
啓林館  
日本文教出版株式会社  
国立故宫博物院  
中華民国国立中央図書館  
海外學人月刊社  
今日郵政月刊社  
自由中国紀事報社  
光華画報雜誌社  
中華民国僑務委員会  
  
〔個人〕  
市原信治  
伊東久之  
内海邦彦  
小沢建夫  
加藤芳明  
窪田一郎  
小坂田和美  
後藤晶男  
田口忠夫  
広瀬 鎮  
松田之利  
万葉裕一

水野重信  
宮崎 惇  
村上 實  
吉田幸平  
吉田 実

## 〔利用状況〕

### 1. 入館者数

今年度は、入館者総数82,735人、前年に比べ約17.9%の増加で、特別展恐竜王国「恐竜一謎とロマン」の影響が大きかった。

また、開館日数は306日であり、1日平均の入館者数は270人であった。

月別の入館者数は右表のとおりである。1日の入館者が最も多い日は8月9日で、1,542人を数えた。なお、8月は1日の入館者数が1,000人を超えた日が6日あった。

団体入館者数をみると、146団体10,784人で入館者総数の約13%にのぼり、月別では10月が最も多く、団体入館者全体の約31%を占めている。

これを県内、県外別にみると、県内が70団体4,073人で全体の約38%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く、63団体6,385人で全体の約59%を占める。

また、平成4年11月1日より、小中生の常設展無料化を実施した。今後の小中生の入館者増加が期待される。

月	小中生	大高生	一般	計	開館日数	一日平均
4	3,181	474	3,696	7,351	26	283
5	3,100	509	5,836	9,445	27	350
6	1,541	637	3,440	5,618	25	225
7	2,119	278	3,728	6,125	27	227
8	6,745	662	10,192	17,599	26	677
9	2,032	565	4,762	7,359	26	283
10	6,919	471	3,417	10,807	27	400
11	2,605	133	4,281	7,019	25	281
12	254	62	1,176	1,492	23	65
1	561	128	2,093	2,782	24	116
2	617	57	1,847	2,521	24	105
3	1,155	806	2,656	4,617	26	178
計	30,829	4,782	47,124	82,735	306	270

特別展期間中に入館者数は、右表のとおりであり、入館者数53,976人、1日平均425人であった。これは入館者総数の約65%にあたり、特別展への関心の高さがうかがえる。

特別展名	期間	小中生	大高生	一般	計
飛騨のあけぼの	4.21～6.14	6,879	1,072	9,795	17,746
恐竜一謎とロマン	7.14～9.6	9,290	1,352	14,507	25,149
近世に輝く濃飛の群像	10.20～11.23	5,392	498	5,191	11,081
計		21,561	2,922	29,493	53,976

### 2. 施設利用

今年度の講堂及び研修室の利用者は次のとおりであった。

〈講堂〉

4. 8. 4 岐阜市小学校校外研修 I 生活科部会  
4. 8. 19 岐阜県中学校理科研究部会

〈研修室〉

4. 4. 26 岐阜県哺乳動物調査研究会  
4. 7. 18 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部  
4.7.30～31 関市少年少女科学教室  
4.8.25～28 岐阜県立中濃西高等学校  
4. 11. 4 岐阜県教育委員会学校教育課長会  
4. 11. 21 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部

## 〔博物館関係団会〕

### 1. 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。公開講座（年4回）、機関紙（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うよう努力した。

平成5年3月現在、会員館園は122、個人会員は23名、名誉会長以下主な役員は次のとおり。

名誉会長一梶原拓、会長一蒔田浩、副会長一日下部尚・青木允夫・篠田幸男、理事長一松本五三、事務局は岐阜県博物館内にある。

### 2. 岐阜県博物館友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を深めること」をめざして発足した友の会は本年度創立10周年を迎えた。

一般会員501人、後援会員22人、ここ数年間、会員数も事業内容も安定してきており、次の飛躍への土台が整ったといえよう。

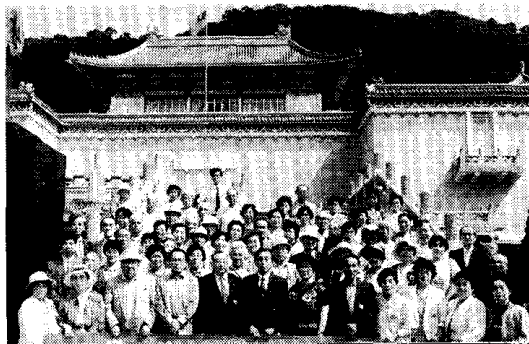
事業内容は昨年度と大きく違ってないが、10周年ということで会員に積極的姿勢がでてきたことが新しい動きである。

主催事業のうち、探訪の旅は3泊4日の台湾故宮博物院の見学をはじめとして、1泊2日を1回、日帰りを2回。このほかに他館見学を1回実施した。いずれも定員を超える参加者で、会員の期待の大きさを物語っていた。

文化講演会は本年度3回目を実施した。東京国立博物館刀剣室長の小笠原信夫氏を講師に迎えて、「武将と美濃鍛冶」と題した講演を参加者173名が熱心に聴講した。

友の会活動の成否をきめるポイントは、地味ではあるが、「友の会報」や各種案内の配布に基礎を置いた会員相互の結びつきにある。「友の会報」は本年度も4回発行し、特に「33号」は10周年特集号とした。岐阜県博物館友の会の「会報」の水準の高さはつとに知られているところであるが、一会員の熱心なボランティアに支えられていることを付記しておきたい。

友の会のもう一つの大切な側面である博物館



▲台北、故宮博物館にて。

への支援活動は、共催事業への参加支援、資料等の作成頒布等々あるが、本年度は10周年記念としてパソコンを寄贈することなどもした。また、今年度はじめて実施した「七草がゆを食べよう」に、会員がボランティア奉仕したことは、新しい活動の芽として注目される。

平成4年度の主な事業内容は次のとおりである。

#### 〈会議〉

役員会 4.26 総会 4.26  
後援会懇談会 1.22 正副会長会議 3.26

#### 〈研修事業〉

- ・探訪の旅（故宮博物院） 5.25～28 65人
- ・同（大和町・白鳥町） 7.12 74人
- ・同（登呂遺跡ほか） 11.8～9 36人
- ・同（長浜市ほか） 3.7 104人
- ・他館見学（県美術館） 8.22 24人
- ・文化講演会「武将と美濃鍛冶」 11.3 173人

#### 〈友の会報発行〉

- ・第31号 4. 1 500部 B5 6頁
- ・第32号 7. 1 500部 B5 6頁
- ・第33号 10. 1 500部 B5 6頁
- ・第34号 1. 1 600部 B5 6頁

#### 〈資料等の作成頒布〉

- ・特別展図録「飛驒のあけぼの」 3000部
- 「恐竜」 620部
- 「近世に輝く濃飛の群像」 500部
- ・「総合案内」等の頒布

#### 〈その他〉

- ・親子教室等共催事業
- ・会員助成（入館料補助）
- ・県博物館へ寄贈

## IV 利用案内

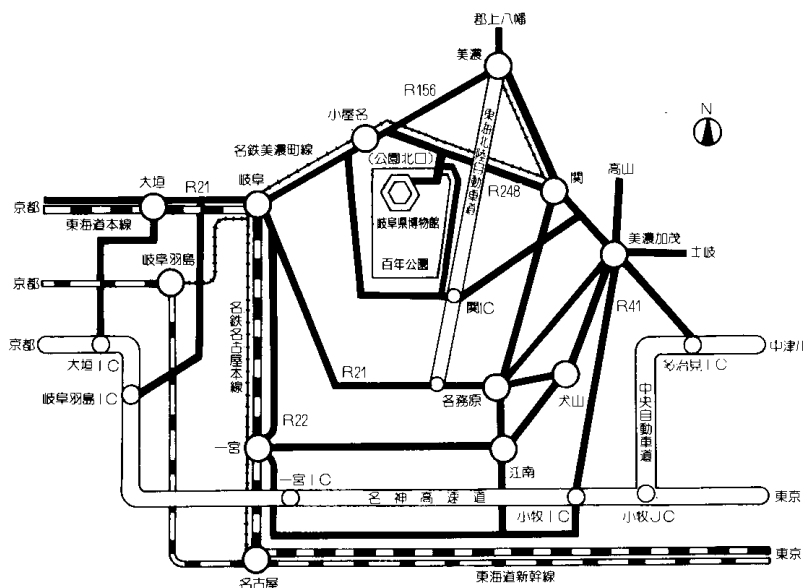
- ・開館時間 4月1日▶10月31日 9時▶16時30分  
11月1日▶3月31日 9時30分▶16時30分  
(入館は16時まで)

- ・入館料 ( )は特別展開催中の入館料

区 分	個 人	団体(20人以上)
一 般	210円(500円)	150円(400円)
高校・大学生	100円(300円)	50円(200円)
小・中学生	無 料(150円)	無 料(100円)

※団体で利用していただく場合には、下見においでください。  
解説資料・利用案内等をさしあげ、館内を御案内します。

- ・休 館 日 月曜日(月曜日が祝日にあたるときは翌日)  
年末年始(12月27日▶翌年1月4日)
- ・駐 車 場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場を御利用ください。  
駐車料金……普通(軽)自動車 300円、バス 800円
- ・交 通 名鉄美濃町線 小屋名下車 徒歩約15分  
岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分  
自家用車のご利用の場合は百年公園北口からお入りください。



〒501-32 岐阜県関市小屋名小洞1989 ☎(0575)28-3111(代表) FAX(0575)28-3110